

1994年5月 [編集] 前田米美 〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA

April. Major 1994

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 81

Memoro de S-ro Irineu Campos

(イリネウ・カンポスさんとの思い出)

No. 2

FUKUMOTO Hirotsugu



(日本エスペラント
大会の食堂で
トニーさん
韓国の参加者
日本の学生と)

(トニーさんにエスペラントへの興味をもって
もらうことには不成功、しかしイリネウ
さんは、なかなか楽しんだみたいだ)

En la kongreso li ofte alparolis

aliajn partoprenantojn. Kaj bonſance
brazila esperantisto troviĝis en la
partoprenantoj. S-ro Irineu parolis

kun li kaj s-ro 竹原如是. Lia lin-

gva kapablo ankoraŭ estis ne riĉa, sed li multe klopojis interkonatiĝi kun aliaj, iom mikstante la anglan kaj la portugalan. En vespero li dancis en BON-DANCO, kaj profunde ĝuis bonan esperantan atmosferon interhomian. Iom da biero akcelis tion. En mateno ni promenis tra la sankta areo ricevinte OHARAI (forvisi la malpurecon de la animo).

(抹茶を味わう、和服の写真を撮る)

En la kongresejo oni servis pri japana te-ceremonio. Ni tri ankaŭ gustumis tiun maldolĉecon kun dolĉa

MANJUO (japana kuko). Li tre interesigis kaj fotis kelkajn, fokusante la bele vestitan japaninon en KIMONO.
(和歌山城と紅葉渓)

Iun dimanĉon ni vizitis la parkon de WAKAYAMA kastelo. Bedaŭrinde tiam mankis ges-roj TAKAMI. Ni rigardis la tutan urbon de la supra etaĝo de TENSHUKAKU(cef-konstruaĵo de kastelo). Poste ni eniris MOMIJIDANI-ĝardenon, kaj gustumis teon kun kuko. Ankoraŭ estis en la mezo de oktobro, tial ni ne povis ĝui la aŭtunajn kolorojn. Brazilanoj, kiuj laboras en japanio,



(和歌山城公園、紅葉渓庭園で)

Šajnas ne viziti al diversajn lokojn ĉirkaŭ la loĝejo. Ankaŭ s-ro Irineu ne havis spertojn esti en ĝardeno.

(村まつりでのもちつきは特別の経験)

En novembro mi invitis ilin al la aŭtuna eta festivalo de Yamagishi-vilago, kiu situas en KANAYA-urbo. En la festivalo oni aranĝas multajn manĝaj-bufedojn, kaj vizitantoj povas

Ni mangis kaj trinkis. Post tio ili faris MOCHITSUKI (pisti rizajon per ligna martelo). Ili tre ĝojis, kaj s-ino Rita faris MOCHI-bulon. Post tio ili mangis MOCHI-ojn kun fabo-pulvoro kaj sukero.



(もちつきをするイリネウさん)

(リタさんはもちをまるめる)



senpage mangi frititajn vermicelojn, rostitan viandon, ktp. kaj lakton aŭ oranĝo-sukon trinki. Krom tiuj estas banano, orango, MOCHI(rizo-kuko), ZENZAI(dolĉa supo kun MOCHI kaj ruĝa-fazeoloj), UDON(japana nudelo), WATAGASHI(vat-aspekta dolĉajo, farita de sukero), kaj tiel plu.

(柿、みかん、キーウィ、そして菊)

Persimonoj maturigis kun ruĝa-koloro. MIKAN (japana mandarinoj) estis flava sur monto-deklivo. Krom tiuj ni trovis KIUI-frukton. Brunaj ili estas. En la ĝardeno de domoj oni aranĝis krizantemojn. Ni fotis kun la fruktoj kaj floroj. (daŭrigota)

日本語とエスペラントのはざまで

前田 米美

「いわゆるエスペラントの十六条憲法」などと、たいそうな議論をこねてみましたが、書いている間、ふと、「やっぱりエスペラントは西欧語やな」と思ったことがあります。何をいまさら...日本語のような、漢字、ひらがな、カタカナまじりの言葉が国際語になっていたら、世界の人はもっと困るでしょうね。でも近頃は、日本の経済力のおかげで、日本語を喋ったり書いたりする外国人もふえてきましたが、このことについては、ここでは取り上げません。

私のようにわか講師が、初等の人にエスペラントを教えている間に、受講者の中から、次のような話が出てきて、びっくりするのです。

1. 文の途中に、(,)コンマがあって、kiu, kio などが続きますが、つい、『誰が』『何が』と訳して困ってしまうのです。関係詞とかいうそうですが、これがやっかいです。

2. 前置詞というのは、日本語とは語順が逆になるのですね。まあ言うたら、日本語は後置詞！？ということになるんですか。

3. 自動詞・他動詞って何ですか？ どうしてこれに、エスペラント得意の目じるしがつかないのですか。

自動詞・他動詞がよくわからないのに、-iĝ や -ig がつくと、よけいわからなくなります。

surprizi が他動詞で、「びっくりさせ」られます。-iz が -iĝ と勘違いしました。

suferi(自)と ĉagreni(他)、それに近頃、geni(他、まれに自)というのにも出くわして、ナヤんでいます。

4. *havas* は、英語の *have* で、むかし単語帳に「持っている」とひとつだけ書いて、暗記して、安心していましたが、日本語の「何才です」、「私には夫がいます、あります」にも *havas* が使われているのです。

字引で引くと訳がたくさんあって、イヤになります。

会話の時、「兄弟があります、います」というところで、つい *estas* になつて、*havas* が口から出てこないのです。

多分、講師先生の旧式な教え方の不用意さ、むかしの中学校英語の講義式、単語帳丸暗記の逐語訳をだらだらやってきた成果でしょうか。

1. 関係詞

Fundamento de Esperanto の「練習文例集」を見るとその第6課に早くも、

Jen estas la pomo, kiun mi trovis.

という、関係詞を使った文例が、何気なく無造作に出てまいります。西欧人には、何でもないことのようです。他のヨーロッパで出版されたエスペラントの教科書を見ても、同じような有様です。我々日本人にとっては、全く見慣れない文の運びです。

そこで、日本語の言語習慣と、エスペラントのそれとを、もっとわかりやすく、上手に結び合わせる教え方の工夫が必要だなと思い付きました。

うしろから訳して「...したところの」とか、前から訳して「そして、(それ)その人は...」と訳しなさいと、私も以前から簡単に説明していました。これも多分むかしの学校英語の影響でしょうか。

私も学生時代、エスペラントをやっていて、関係詞 *kiu* に *-n* がついたり、複数になったりするのがわからなくて、当時の私のエスペラントの先生に質問しました。先生は便箋を何枚も使って、長い長い手紙で、実に明快に説明して下さいました。その時、私はエスペラントのすばらしい論理性にすっかり魅了されてしまい、それからのエスペラントの勉強がたいへん楽しくなり、また、学校英語もその後、少しそくわかるようになりました。ありがとうございました。

近頃学会から、藤巻さんの「はじめてのエスペラント文法」が出て、関係詞の説明がたいへん丁寧なのに感心しました。関係詞の説明にはじめて出会う日本人にとって、こういった文法書が、今後もっと必要になることでしょう。ただし、書物の形になると、どうしても説明が固くなるようで、少し歯ごたえが強すぎるようにも思います。と申しましても、私にはこれ以上の説明はできませんが。

2. 前置詞

日本語では、「机の上に」という時、「の上に」を「机」の後ろに書いて言います
が、スペラントでは、逆に前に書いて表現します。

Sur la table

初等の人達が、日本語の場合を、後置詞と名付けたこの発見？！は、素朴で簡単なようですが、大目にしてあげたいと思うのです。

また英語を引き合いに出しますが、私たちは中学英語では殆ど文句なしに頭から憶えこんできました。ことばの勉強というものは、幼い時に、口うつしに憶えこむのが一ばん効果的とされていました。ところが英語では、いつも前置詞は前に置かれるかというと、そうでもなく、副詞として、いろんな場所にボコボコ出てきて、わけがわからなくなりますが、スペラントでは、いつもきちんと前に置いています。副詞に使われる場合は、語尾に -e を付けて sure としたり、合成語にして、-surmeti という形をとります。

私たちは、スペラントを幼い時にたたきこまれるのでなく、たいてい、かなり成長してから習い始めるので、講師が手を抜いたのを指摘したようなこの発見は、やはり大切です。初等講習中のある時期に、これをはっさく認識しておいてもらう必要があります。

(つづく)



スペラントであそびー(4)

うつくしいものを
うつくしいと
思えるあなたの
心が美しい
相田みつを

このあそび、私の気まぐれのような思い付きから始まって、応募がなかったら消滅のつもりでしたが、緑丘誌の原稿不足をありがたく推察してくださった方々のお力で、この号でも、続いています。お礼申し上げます。

相田みつをさんという方は、大正13年、栃木県に生れ、旧制中学を卒業後、禅宗の名僧に出会い、在家のまま仏教を学びました。平成3年、67才で逝去。たくさんの仏教に関する名句・書などを遺されました。

Multe pli bela
estas via animo,
kiu kapablas apreci
superbelecon.

-Tanaka Masami-

Vi trovis tion bela,
Car vi havas
belan koron.

-TAKEDA-

Belas via koro,
Car sentas vi
la belon.

-R.Okumura-

表現のしかたも、いろいろあるものです。
たのしく勉強させていただきました。
また、エスペラントの持つ豊かな表現力も
ここに見られます。

あそび②は、エスペラント訳の俳句などから、
原句をあてるあそびでしたが、この方はずっと
応募者はありませんので、消滅させます。

次号のあそび：

その人には
うそがいえない
その人は
あなたの大事な
仏さま

相田みつを

そんな人との出会いが、一生の間に1人や2人あると思
います。

私は「友だち」と思うのですが、
みつを氏には「仏さま」。
この格差は測り知れない。
... でも、いつものように 気楽にやって下さい。

〆切 6月15日

宛先：〒640 和歌山市小松原6-1-6 前田米美宛

"Mia edzino havas malbonegan memorkapablon."
"Cu si cion forgesas?"
"Ne, si cion memoras!"



(Verkita de Henri Knobbs el Nîmes)

「子どもの本 ”La Malgranda Sorcistino”」



(Die Kleine Hexe 小さな魔女)

エスペラント版 ドイツで発行

近頃、ドイツの S-ino Yoshie KLEEMANN から、近況を知らせるお手紙をいただきました。

その中に、子どもの本 ”La Malgranda Sorcistino”を、よしえさんたちのエスペラント・クラブで長年にわたり翻訳作業をして、やっと出版にこぎつけたというお話をありました。

この本は、1994年のUN国際家族年にあたり、「家族の本」シリーズの第1回の発行として、原作のさしえをそのまま入れ、レオとガイタ・ロベール夫妻が校正にあたったという苦心の130ページです。ドイツでは有名な本で、既に世界44か国語に翻訳され、エスペラントはその45番目になりました。著者は Otfried Preuptler で、ちょうど彼の70才のお誕生日に、よしえさんたちのエスペラント・クラブの S-ino Fischer が出来上がったばかりの新本を献上して、たいへん喜ばれました。

よしえさんは、御主人の Dieter さんと長男のトーマスくんと3人で、今年のソウル世界大会に参加して、この本を持っていきますので、買ってあげてください。出版数が600と少ないので、少し高くつき、申しわけなく、また印刷はユーゴーのザグレブでやりましたので、輸送に苦心しているそうです。1部24ドイツマルク（送料別）約1500円。

(Hexe って、「魔女の宅急便」のキキのこと？！)



En Esperantujo nun sorĉadas

La Malgranda Sorĉistino

Tre konata germana infanlibro "Die Kleine Hexe" de Otfried Preußler finfine estas legebla en Esperanto. Ekzistas jam tradukoj en 44 lingvoj - kiel 45a lingvo aldonigis Esperanto ĝustatempe okaze de la 70 jara naskiĝdatreveno de la fama aŭtoro.

Tre bonſance S-ino Fischer de nia grupo povis persone transdoni la frēse aperintan libron al S-ro Preußler. Li ege interesigis pri nia internacia kunlaboro por atingi tiun celon.

Al la traduklaboro ne nur plenkreskuloj sed ankaú infanoj de diverslingvaj familioj kontribuis.

La libro ampleksas 130 paĝojn kun originalaj desegnaĵoj kaj estas la unua eldono en la serio "Familiaj Libroj" en la kadro de la "Internacia Jaro de Familio 1994" de UN.

La libro prezantas multajn aspektojn de kulturo en germanaj vilaĝoj. La aventuroj de La Malgranda Sorĉistino instigos la fantazion de infanoj en la tutu mondo. Por kursgvidantoj ĝi certe estas taûga legolibro.

"La Malgranda Sorĉistino" estas havebla ĉe Esperanto-Freunde: Durmersheim/Rastatt, Im kirchspizen 12A, 76448 Durmersheim, GERMANIO. Tel.: 07245/5583, Fakso: 07245/86972,
prezo DM 24,00+sendkosto.

'94 世界大会 7月23日～30日 ソウル
日本大会 10月22日～23日 東京



和歌山緑丘会 ー木曜会のうれしいお知らせー

このほど会計係の牛島さんが木曜日の勉強会へ加わって下さいました。どちらかというと勉強よりもコーヒー時間がたのしみな おはさまたち、仲間がふえてますます怪氣炎?を上げ、黒1点の先生はタジタジ....。(タジタジってESPでなんというの?) たのしくがんばってます!

★木曜講座

毎週木曜日 午前10:30～12:00

和歌山市元寺町南ノ丁、サロン「会」

(長崎屋の西南 100メートル)

現在の出席者



+

{ 上中章子、牛島美恵子、龜井幸枝、唐妻尋子、
西原未佳子、船浜明美、吉富相子の皆さん。
時々、松下享代さん。

今年(1994年)5月から「和歌山緑丘会」名義の郵便振替口座の番号が
下記のように変更されました。御留意下さい。

ご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から為替貯金事業に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

先にご案内いたしましたとおり、あなたがお持ちの郵便振替口座の口座番号は、郵便振替通常払込み新処理システム導入に伴い、平成6年5月から次のとおり変更になりますので、ご案内申し上げます。

なお、新たな口座番号のご利用は、新様式の払込書となりますので、ご請求ください。
敬具

現在の口座番号 大阪 6- 3630

新たな口座番号 00960-8- 3630

平成 6年 4月

大阪 貯金事務センター所長

1994年9月 [編集] 前田米美 〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA Julio ~ Septiembre 1994

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (*dumonata*) N-ro 82

Memoro de Sr-o Irineu Campos

(イリネウ・カンボスさんとの思い出)

No. 3

FUKUMOTO Hirotugu



(送別会では、たくさん集まってもらって、楽しい時を過ごしたが)

(病院からの突然の電話でびっくり) por eviti aŭton proksimigintan al li.

Antaŭ 4 tagoj de la planita forveturo de s-ro Irineu, mi ricevis la sciigon, ke li nun estas en hospitalo pro akcidento. Tio estis de la oficisto de la hospitalo SETOO. Tiu tago estis la nacia festotago "Naskiĝtago de la Imperiestro", tial mi estis en la hejmo. Surprizite mi tuj iris al la hospitalo.

Por li estis kelkaj problemoj, ĉar li estas brazilano; alilandano. Pri sano-asekuro feliĉe ne okazis la granda problemo. Li sufiĉe jam pagis la kotizon por "KOKUMIN KENKO OHOKEN" (nacia sano-asekura sistemo) pli ol 1 jaro. Li povis ricevi kuracardon sub la asekuro-sistemo.

(入院治療には色々な問題が)

Li jam estis sur la lito kun la malfeliĉa mieno. Laŭ la klarigo de la fabriko-estro li biciklante falis Sed krom kuracado oni devas pagi aliajn kotizojn. Kiel ekzemple, se oni ne havas familianon, kiu flegas

al li en hospitalo.
kaj tiu malsanulejo ne havas perfektan flegado-sistemon, oni devas dungi KA-SIFU-SAN



(病院ではブラジルの友達がいつも来てくれていたので、楽しかった面も) (virino,

kiu flegas malsanulon pri ne-medicina afero, kiel ekzemple lavi vestajon, ktp. Pli ol 10000 jenoj necesas por dungi tiun por 1 tago.)

En preskaŭ ĉiuj hospitaloj estas ĉambroj kun 1 aŭ 2 litoj. Por tiuj (「イタイ」という日本語をおぼえて)

d o l o r a s !



Ĉambroj oni devas pagi krom-kotizon laŭ la boneco de ekipaĵoj. La prezo de la ĉambro por Irineū estas 8000 enoj. La asekuro-sistemo ne garanti-as pagi por tiuj kotizoj.

En la hospitalo, kelkaj brazilaj amikoj vizitis multfoje, kaj lia ĉambro fariĝis salono de brazilanoj. Ili

plezure babilis en la portugala lingvo.

(多くの人にお世話になって良かった)

Li feliĉe havis multe da zorgantojn. Tio estas: brazilaj amikoj, japanaj kredantoj de Jehova (watchtower), ĵaudaj esperantistinoj, ktp.

Ĉiam li povis manĝi kukon, panon, kaj aliajn. Li havas grandan korpon, do manĝaĵo preparita de hospitalo estas ne-sufiĉa por li.

En la komenco de februaro, li forflugis al sia lando kun restaĵo de gajnita mono, kvankam iomete perdis.

(fino)



日本語とエスペラントのはざまで

- (2) -

前田 米美

会話などで『机の上に』といいたい時、あわてていると、まず *tablo* が先に口から出てしまいます。頭ではわかっていても、口が動かないのです。やはり中学英語のように、何回も言って口馴らしの練習をすることも必要でしょうが、「前に置く」ということがはっきり理解している時と、そうでない時とでは、進歩の早さがちょっとちがうと思うのです。

Fundamento de Esp.の練習文例集で、前置詞が初めて出てくるのは、第6課で、*Sur la tablo kuſas ſtono* という文です。西欧人には前置詞の使い方が体質化しているのでしょうか、私たち日本人の日本語の構造では逆になっているので、反射的に、*tablo* が先に出てしまうのです。

それから、初等の人達は、*Sur la tablo kuſas ſtono.* で、*tablo* が *kuſas* していると読んで、立ち往生している時もあります。

そこで講座では、前置詞を早く会得するコツということで、

① *Sur*などの前置詞はある時期に、せんぶ！憶えてしまいましょうとすすめます。『ワア、そんな無理な』とみなさんおっしゃいます。しかし、前置詞は皆で30コ余り、イミはすぐに憶えられなくても、「ああ、この単語は前置詞くさいな..」とかんでうすうすわかるようになれば、あなたのエスペラントはぐっと進歩することでしょうと申します。

② その前置詞は、どこまで『かかる』のか、(その前置詞の意味が、そのあの文のどこまでかかわっているのか、その前置詞があとどこまでを支配するのか)を、読み取る練習をします。

前置詞と見分けたら、例えば次のように、それを □(かまほこ)でかこみ、『かかる』範囲を *subtreko* (アンダーライン) でさがしだすというような練習を、講師に助けてもらいながらやるのはです。

Sur la tablo kuſas ſtono.

La dentoj de leono estas akraj.

La krajono kuſas sur la fenestro. (以上 練習文例集)

Post la kongresoj, li vojaĝos tra fremdaj landoj.
(La Teksto Unua)

この『かかる』範囲をつかむコツは

前置詞のあとにくる名詞、代名詞及びそれらを飾ることばは、普通、主格で書きます。（16条憲法、8）；時に *-n* がついたりすることもありますが、それは、目的語でなくそれ以外の意味を持っています； *De kie, Gis kiam* などと、副詞がきたりもします；しかし、そのあと、それら以外の別の名詞、代名詞が出てきたり、動詞がきたり、（上の例文の *kušas* や 最後の文例中の *li*）したら、そのすぐ前が、『切れ目』となるのです。時に、前置詞のかかる範囲が、長い文になることもあります。下の例文のように、*Gis* はどこまでかというと、*kiam*（関係副詞）のお役目が終る *vekiĝos*まで『かかる』ので、少しむつかしいかも知れませんが、このカマボコ・ラインが引けたら、文の構造がわかりやすくなります。

Ne veku min morgaŭ, Gis kiam mi vekiĝos.

La Unua Kursolibro を見ると、第2課で *Gis* revido, 第3課で *Ili estas donaco al vi, sinjoro.* と、たいへん自然な形で出してなじんでもらい、そして、第5課で *en, sur, antaŭ* を出して、場所をあらわす前置詞として、本格的に説明しています。

（LUKの手引を見ると、「位置の前置詞」とあります。後置詞などという話を出してしまったあとでは、「位置」ということばと、前置詞の「置」のもつイミが微妙にからまって、わかりにくくなります。手引でも注意していますが、あまりクドクドいうと、かえって受講者は混乱してしまいます。そこらへんが講師の腕前というところでしょうか。）

3. 自動詞と他動詞

これは、やっかいな問題です。

藤巻さんの「はじめてのエスペラント文法」から、自動詞、他動詞の説明を拝借しますと、

自動詞とは、「目的語なしで、完結した意味をあらわす動詞」

他動詞とは、「ほかの人や物に作用を及ぼす意味をもつ動詞」

とあります。

例えば、日本語の「終わる」は自動詞で、「授業が終わる」、「映画が終わる」というように、「何を」という目的語がいらないで、完結した文になりますが、「終える」というと、これは他動詞で、普通誰かが授業を、映画を 終えるので、誰か（或は、何物か）が主語になり、ほかの何ものかを（授業を、映画を）終わらせるという作用があり、その「ほかの何ものか」を目的語にすることになります。

エスペラントの *finas* はよくまちがわれるので、「終える」という他動詞なのです。「授業が終った」を *leciono finis* でほつといてはいけません。*leciono* が何かを終わらせる、その何かを目的語としてつける必要がでてきます。ヨーロッパの映画の終りに *fin* と出るので、「終った」という自動詞と思いこんだりしているのです。*finis* は、語尾 *-iĝ* をつけると、*finiĝis* 自動詞になるのです。

エスペラント得意の目じるし *-iĝ, -ig* があるだけでも、エスペラントの単語を暗記する労力が、ずい分省かれているのです。*-iĝ, -ig* は本来の自動詞・他動詞をあらわす目じるしではなくて、自動詞↔他動詞を転換したり、名詞や形容詞を自動詞、他動詞に変えたりするという、ふしきな役目をもっているのです。2. の前置詞のところで出てきた *veki* 起こす、目をさます に *-iĝ* がつくと、*vekiĝi* 目をさます という自動詞に転換されます。

自動詞、他動詞って一体何ですか という問題に、この項3. のはじめに、一応文法的説明を試みましたが、初等の皆さんにはこんな説明では、すっきりわからないことでしょう。

しかし、その初等の皆さんも、日本人なら、日本語の中にも自動詞・他動詞がどっさりあって、無意識のうちに、上手に使い分けていることを、ご存知でしょうか。自動詞・他動詞などというややこしい文法用語なんか知らないで、ひとつひとつ、あたかも別の単語のように、その場その場の雰囲気で使い分けることを憶え込んでいたことに気づいて下さい。幼い頃から、殆ど苦労することなく、少しづつ憶えこみましたから、その数はボウ大です。

ところが、「幼い頃から」でなく、「大人になってから」日本語でこれを憶える外国人にとっては、大へんです。

『外国语としての日本語、その考え方・学びかた』(講談社現代新書)という本の中で、著者の佐々木瑞枝さんは、外国人に日本語を教えるのに苦心さんたん。むかし中等学校で習った日本文法はあまり役に立ちません。新しい文法を作っていかねばなりません。自動詞・他動詞については、寺村秀夫さんという方の分類表を挙げておられます：

自動詞	他動詞	動詞の例	筆者のつけ足し
1. <u>husagaru</u> - <u>husagu</u>		ふさがる - ふさぐ	アル - ウ形
		からまる - からむ	
2. <u>ataru</u> - <u>ateru</u>		あたる - あてる	アル - エル形
		植わる - 植える	
3. <u>aku</u> - <u>akeru</u>		開く - 開ける	ウ - エル形
		育つ - 育てる	

4. <u>mawaru</u> - <u>mawasu</u>	回る - 回わす	ル - ス形
	移る - 移す	
5. <u>taoreru</u> - <u>taosu</u>	倒れる - 倒す	レル - ス形
.	流れる - 流す	
.		
.		
10 <u>kawaku</u> - <u>kawakasu</u>	乾く - 乾かす	ウ - アス形
	飛ぶ - 飛ばす	

(つづく)



ESPERANTOの

← ら → あそび 

その人には
うそがいえない
その人は
あなたの大事な
仏さま

相田みつを

応募締切6月15日のこの serio がのった雑誌が、6月
18日に届きました。編集生の不手際おゆるしください。
あわてて、毎回ご応募くださる皆さんにハガキでお願いしま
したところ、早速作品いただきました。ありがとうございました。
これで、この欄、継続できます。
ところで、この夏の暑さ、なんということでしょう。編集作
業、遅々として進まず発行が今日までのびてしましました。
あそびとはいえ、汗顏の至り、ご寛容ください。

Neniel vi povas
diri malveron al tiu,
kiun vi adoras elkore.
Tiu ja estas Budao.

-Tanaka Masami-

Vi povas neniel
mensogi al tiu,
kiu estas
sankta adrato
de vi.

-Bonkura-

Trompi lin -
- ne eble.
Li via gemo
la Budhao.

-R.Okumura-

Al tiu
vi ne povas mensogi,
tiu estas
via kara budhao.

-sennomulo-

Vi ne povas
mensogi al li.
Tiu ja estas
via neanstatauebla
Sanktulo.

-TAKEDA-



編集生の感想：-

Tanakaさん、原文にとても忠実な訳し方だと思います。

Bonkuraさん、Tanakaさんのを少し簡潔にまとめました。

Okumura先生、自由律俳句の境地。

Sennomuloさん、原文をきっちり訳されました。

TAKEDAさん、これも原文をよくつかんでいると思います。

全体で、「うそがいえない」の「うそ」は、diri malveron, mensogi, trompiと3つ出ました。

次号のあそび

よりよく生きようとする
親の後ろ姿が
子どもを育てる。

相田みつをさん、すっかり有名になりました。

今回はそれで、別のところから名句を拝借しました。

「子は親の背中を見て育つ」ともいわれます。

〆切は、前回にこりましたので、この号を入手されてから、15日後ということにいたします。どうか奮ってご参加を！

宛先：〒640 和歌山市 小松原6-1-6

前田米美 宛

今年は本当に暑い夏でした。皆さんお変わりありませんか？

先日アメリカのDoroteoさんが世界大会の後、和歌山を訪れました。

”元気じるし”の彼女には、ただ驚くばかりでした。

そろそろ秋風が立ち始めました。皆様どうぞ、お元気で。(Jaūda Rondo KAMEI)

WAKAYAMA Oktobro ~ Decembro 1994

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi

N-ro 83

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakto を読む No. 1

FUKUMOTO Hirotugu

TEJO (世界エスペラント青年組織) の機関誌『Kontakto』は初心者向きに比較的易しい表現で書かれている記事も多く、読みやすいものの一つと言えるでしょう。この143号(1994年5月号)にザメンホフの末娘リディアについての記事が掲載されていたので、一緒に読んで見たいと思います。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.1

Kvankam ne estas certe, kiam precize forpasis Lidja Zamenhof, la plej juna ido de la iniciatinto de Esperanto, kelkaj fontoj datas ĝin en 1944. La bahaa movado, por kiu Lidja enkorpiĝas la ligitecon inter la idearoj bahaa kaj internacilingva, memoras la

(単語の解説)

certe 確かな、 precise 正確には、 for-pasi 死去する、 la plej juna ido 最も若い子供(末っ子)、 iniciatinto 創始者、 fonto 泉、源、ここでは情報の出所、 dato 日付、 dati ĝin その日付を～としている、 bahaa movado バハイ教徒の運動、 korpo 身体、 enkorpigi 体現する、具現する、 ligi 結びつける、 lig-it-ec-o 結合、 ideo 意見、考え、 ide-ar-o (総合した) 理念、思想、(参考: idealo 理想)、 memori 覚

50-jariĝon de ŝia terura ekstermo en
la nazia koncentrejo Treblinka.

えている、memori la 50-jariĝ-on 50
周年の記念行事を行う、terura 恐怖の、
ekstermo 皆殺し、nazia ナチ（ドイツの
ヒットラーによる）の、koncentr-ejo 強制収容所、Treblinka トレブリンカ（地名）

=====

〔試訳〕エスペラントの創始者の末娘、リディア・ザメンホフがいつ亡くなったのか正確なことは分からぬが、いくつかの説によると、それは1944年のことだったとされている。リディアはバハイ教の教えと国際語の思想を結びつけ、自分の中に体現していた。バハイ教徒の運動はトレブリンカのナチ強制収容所での彼女の虐殺より50周年であることを記念して行事を行っている。

=====

EN la 1878 la 19-jara Ludoviko Zamenhof havis sian "Lingwe Universala" preta por uzo, kies naskiĝon li celebris kun siaj gimnaziaj samklasanoj per paroladoj kaj kantado de la himno de tiu nova lingvo:

Malamikete de la nacjes,

kadó, kadó jam tempo' estas!

La tol' homoze in familje

konunigare so debá.

Tiu ĵ linioj instruas al ni multon,
ne nur pri la kreigo de Esperanto, sed
precipe pri la idearo proklamita de
gia aŭtoro. La tuta homaro devas unu-

"Lingwe Universala" 世界語（ザメンホフが学生時代に造った共通語の案）、preta por uzo 使用するために準備がととのった（→使用可能な程度に充分検討された）、celebri 祝う、gimnazio ギムナジア（中学、又は高等学校、）、sam-klas-an-o 同級生、parol-ad-o 演説、話、kant-ad-o 歌、himno 賛美歌、賛歌、malamikete . . . deba → (Malamikeco de la nacioj // Falu, falu, jam temp' estas! // La tuta homaro en familio // Kununuigi sin devas.) linio 線、文章の行、kre-iĝ-o 成立、創造、precipe 特に、proklam-it-a 宣言された、公表された、

» iĝi en unu familio -- jen la moto, kiu priskribas la celon, kiun Zamenhof donis al sia vivo. Ne la kreo de iu bela universala lingvo, taŭga por komerco kaj verkado, estis lia ĉefa celo, sed la disvastigo de la ideo pri homara interfratiĝo, Homaranismo, kiel li mem nomis sian idearon. Kaj, sen neŭtrala mondlingvo, la unueco de la homaro ne estus eĉ parte atingita.

aŭtoro 著者、hom-ar-o 人類、unu-iĝ-i 一つになる、統一する、moto モットー、標語、pri-skribi ~について記述する、celo 目的、vivo 生命、生活、一生、kreo 創造、universala 世界共通の、全世界的、(universa 宇宙の)、taŭga ~に適した、komerclo 商業、verk-ad-o 著作活動、disvast-ig-o 分散して広がらせる→普及する、inter-frat-iĝ-o 兄弟の様に親しくなること、兄弟の様な間柄になること→友好、親交、Hom-ar-an-ism-o 人類人主義、nomi

名付ける、~と呼ぶ、neŭtrala 中立的な、unueco 一致、統一性、parte 部分的に、ating-it-a 達成される、到達される、

=====

【試訳】1978年、19歳になったルドヴィコ・ザメンホフは、自分で造り、実用に耐えるまでに仕上げていた世界語 (lingwe universala) の誕生を同級生たちと一緒に祝って、その言葉で話をし、その言葉を讃える歌を歌った。

民族の間の憎しみよ、 倒れよ、倒れよ、時は至った、

人々はすべて、 ひとつの家族になるべし

この歌詞はエスペラントの創造についてはもちろんのこと、特にその作者により表明された理想についても、私たちに多くのことを教えてくれる。「全ての人々が一つの家族に一体化すべし」、これは、ザメンホフが自分の人生に課した目的を語ってくれる標語である。商売や物書きにも役に立つだけの美しい世界語を造るということでなく、ホマラニスモ（人類人主義）と名付けた、彼自身が自分のえがいた理想を広めることができが彼の主たる目的であった。そして、もしも中立的な世界語がなかったならば、人類の統一は部分的にすら成し遂げられないに違いない。

En tia etoso naskiĝis kaj kreskis la zamenhofaj gefiloj, Adamo, Sofia kaj Lidja, Kiam Lidja naskiĝis en 1904, ŝiaj gefratoj jam estis preskaŭ plenkreskaj kaj la ge-patroj ne plu junaj: la patrino havis agon de 40 jaroj kaj la patro 44. Kun la gefratoj ŝi ne povis multe interrilati, ĉar tiuj studis medicinon en Svislando, kaj ankaŭ poste ili ne ofte vidis unu la alian. *

etoso 雾囲気、エトス、ムード、nask-iĝ-i 生まれる、kreski 育つ、ge-filoi 子供たち、ge-fratoj 兄弟姉妹、preskaŭ ほとんど、（それ以上ではないが、それに近い状態、preskaŭ dek knaboj 8または9人の少年、cirkau dek knaboj 約10人、たとえば9人から11人）、ge-patroj 両親、ne plu junaj もはや若くない、inter- rilati kun ~と相互に関係がある、交際する、つきあう、medicino 医学、unu la alian お互いに、ĉar の次の tiuj は前行

の gefratoj を受けて、『彼女の兄姉』のことを、poste の次の ili は、『Lidja Adamo, Sofia』の3人を指す。

[試訳] そのような雾囲気の中で、ザメンホフの子供たち、アダム、ソフィア、リディアが生まれ、そして育った。1904年にリディアが生まれたときには、彼女の兄姉（きょうだい）はすでに成人に近く、両親ももう若くはなかった。母は40歳で、父は44歳であった。兄と姉はスイスで医学を学んでいたので、リディアは兄姉と多くつきあうことができなかつたし、それから後も彼らはお互いになかなか会うことがなかつた。

[Informatio] ◎ヒマラヤエスペラント大会 1995. feb. 26～mar. 9 ネパール、カトマンズ
◎世界無民族者大会（国際労働者大会） 1995. maj. 1～7 中国、西安 ◎日本・中国・韓国青年交流会 1995. jul. 20～26 中国、西安 ◎青少年国際大会 1995. aug. 16～22 中国、西安 ◎エスペラント旅行関係についての中国・国際協力会議 1995. jan. 10～16 中国、西安 ◎第2回夏期合宿 1995. sep. 10～16 中国、西安近郊 Tajbaj 山地 ◎社会主義国エスペラント運動協力会議 1995. okt. 1～7 中国、西安 ◎世界大会 1995. jul. 22～29 フィンランド、タムペレ

#####
ソウルの街角で No. 1
#####
FUKUMOTO Hirotugu

今回の世界大会は一番近い国、韓国となつたこと、それにアジアで3回目の開催とあって、何とか参加したいと思って、大会の登録は済ましていた。今回は団体旅行でなしに、身近な国であるから人に頼らずに行きたいと思いながらいたが、結局最終的に大本の旅行团に入れてもらうことに決めて、申込書を送った。

ところが、これはその次の日に早速キャンセルすることになってしまった。身内に不幸事があり、大会が49日の法事と重なることになったからである。

しかしながら、結局は開会式には出られなかったものの、何とか参加することができ、私にとって初めての世界大会となった。残念

なことに、幾分か気分が重かったこともあって、大会の行事への参加も気が進まず、その上多くの参加者との出会いにも余り積極的になれなかつた。

ソウルは予想していたよりも暑くて、今年の夏は日本やヨーロッパと同様に半世紀ぶりの暑さだとことであつた。ホテルの中は空調もよく利いて居こごちが良いが、外に出ると照りつける太陽に身体も焼けるようであつた。その上、この街の交通の騒々しさとせわしさには、本当に驚いてしまつた。青信号でもよほど注意しないと、車のために安心して横断歩道が渡れないような交差点もあり、一台の車が止まって隣の車に合図して止めてくれたので渡れたこともあります。

ホテルは地下鉄の駅からも2キロメートルほど離れていて、ソウル駅や市役所のある中心部へは10数駅乗る必要があった。一回目出かけたときは、ホテルから地下鉄の駅まで



(昌徳宮：景福宮と共に秀吉軍に焼かれたあと、朝鮮王朝の宮殿として再建された)

(昌徳宮の木立に囲まれた池で)



歩くつもりで地図を便りに歩いて行った。駅に近づいてきて、道がちょっと分からぬのと、韓国語で道を尋ねてみたいのとで、人に訊いてみた。「チハチョル ヨク オディエヨ?」(地下鉄の駅はどこですか?)。

ところが、発音が悪いのかさっぱり通じないので、地図を出して駅を指し示してやっと分かってもらった。しかし、自分で地図の上から判断して、もう一つの少し遠い駅の方に向かって歩き出したので、呼び止められてしまった。その人はコーラかジュースの配達を

しているのかトラックを指し示して、乗れと言っているようである。駅まで送ってくれるのだと分かったので、乗せてもらった。

駅はそこからすぐ近くであった。「日本人です。ありがとうございます。」と韓国語で言ったが分かったようで、なにやら二人で話したり、私に向かって言ったりしたが、私は全くわからずじまいでした。駅について握手をして別れた。

昌徳宮に行ったところ、英語、日本語、韓国語のガイドさんについて見学するようになっていて、日本語のガイドまでまだ1時間以上またなければならなかった。英語の方は約20分ぐらいの待ち時間だったので、他の何人かの日本人とおぼしき人たちとともに、英語のガイドにくつついで入った。すでに他の景福宮、徳寿宮等見ていたので、特に大きな興味は引かなかった。とにかく暑かったこともあって、奥まった休憩所の売店でコーラを買って飲んでしまった。宮殿もオンドルで暖めているのか、炉の焚き口のような穴の説明もあったが、英語あまりよく理解できなかった。

色々と説明があったが英語だったこともありほとんど覚えていない。ここを出て隣の公園のベンチで寝ころんで見たが木陰でもそんなに良い気持ちとは言いがたく、早々に腰を上げた。地下鉄の通りの方へ戻る途中、すもの少しだけ大きい様な果物があって、冷蔵庫で冷やしていたのが目に付いたので、うますぎに見え、4個買った。冷えていておいしかったが、少し水気が少なくて食べやすいものの、ちょっと物足りない味に思えた。

少し行くとたべもの屋や屋台のある裏町を

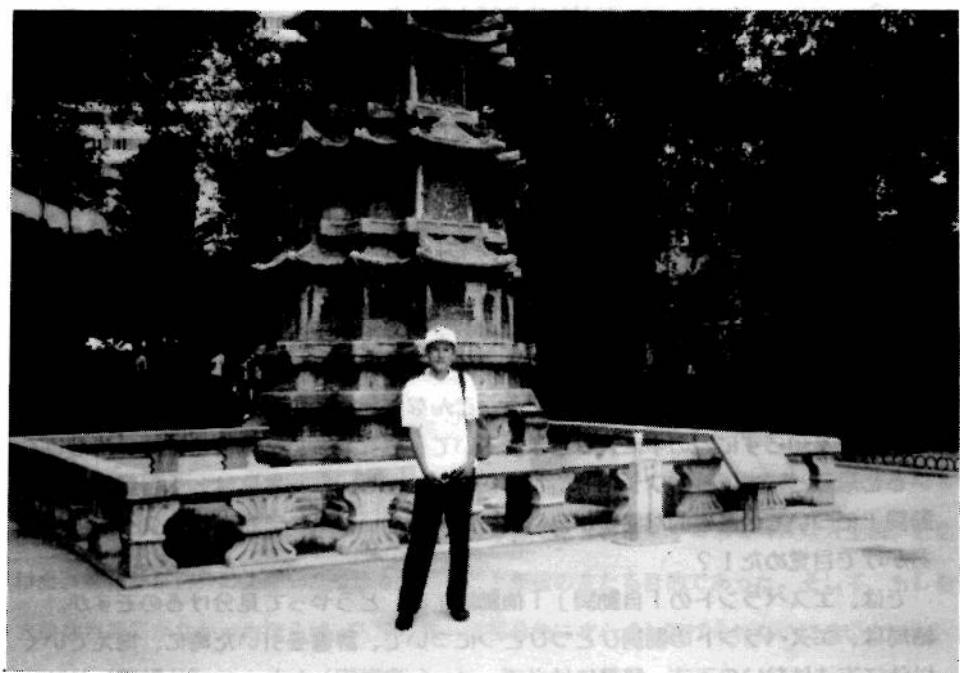
とおり、パゴダのある公園に行き当たった。こんな店は多分味は良いのであろうけれど、ホルモン料理のようで、何でも食べられるたちでもないので昼時であったが入ることができなかった。公園の入り口の果物屋でリンゴを2つ買って食べることにした。この公園は人がいっぱい居て、集まつてものを食べたりするグループ、買って来た弁当を一人で食べている人、その他将棋のような遊びをしている人など、大変にぎやかである。ちょうど昼時であったからかもしれない。

パゴダ（仏塔）があって、ここで一枚写真を撮った。ここから反植民地運動の万歳事件が始まったのか、歴史に詳しくなく定かでない。50年前の1944年にはこの公園はどんな様子だったのか、当時のこの町の人口と

日本人の割合は如何ほどだったのか、日本の植民地支配が今まで続いていたら、朝鮮の民族文化はどれくらいまで抹殺されていただろうか。ともかく、悲劇的な内戦を経て、いまは大きな活気を示しているソウルの中心地について、愚かな私達人間の歴史と、現在を生きる人々のたくましさに、様々な思いが浮かんできた。

（観光案内書によると、この公園はタプゴル公園といって、1919年3月1日、日本帝国からの民族独立運動に際し独立宣言が発せられ、抵抗運動が始まった有名な場所とのことです。しかし容赦ない弾圧によって、実に多くの犠牲者をだして、植民地化がより強く進められていくことになりました）

（次号続く）



（昔寺院だったので、国宝第2号の十層の石塔（パゴダ）やこの他に八角亭もあります）

日本語とエスペラントのはざまで

- (3) -

前田 米美

エスペラントと日本語のくいちがいについての「くれごと」 続けます。

その前に、前号の訂正を。

P 4. いちばん下の行、(Post) la kongresoj のカマボコ・ラインがぬけました。

P 5. 上から 11 行、Ne veku min morgaŭ, gis kiam mi vekiĝos. gis は、「接続詞」であって、「前置詞でない」というご指摘いただきました。まさにその通りで、この場合、例文として不適当でした。この gis は kiam といっしょになって、あとの mi vekiĝos という「文」と、前の Ne veku という「文」をつなぐ接続詞の働きをしています。不勉強おはずかしく、おわび申し上げます。gis を前置詞にして、その後に長く単語がつながるのをお見せしたくて、ついあわててしましました。前置詞のあとには普通「主格の名詞」がおかれるが、前号 p.5 に書いておきながらのまちがい。長い単語のつながりを、gis のあとに置きたかったら、gis mia vekiĝo natura bonhumora などとすればよかったです。

こんなご指摘、歓迎します。この私の「くれごと」の内容が向上いたします。どうかご遠慮なくお教えください。尚、そのご指摘をそのまま、この雑誌に載せててもいいものでしたら、※印を転載範囲の文の前とうしろにつけていただければ、有難く存じます。

さて、前号の終りは、日本語の「自動詞」「他動詞」の分類表の一部を、『外国語としての日本語、その考え方・学びかた』(講談社現代新書、佐々木瑞枝著)の中から、寺村秀夫さんの研究をお借りしました。10 分類の中から 6 つだけ紹介しましたが、日本人の私が見ても、目がクラクラしそう。一分類について、例がわずか 2 つずつですから、まだまだたくさんあります。こんなにたくさんの「自動詞」「他動詞」を、それと知らずに頭の中に入りこませていて、それを私たちは自由に使いこなしていると思うと、ちょっとフシギな気がします。つまり、私たちには、「自動詞」「他動詞」についての基礎的な素養が自然に身についていた！ それが、エスペラントのおかげで目覚めた！？

では、エスペラントの「自動詞」「他動詞」を、どうやって見分けるのですか。結局は、エスペラントの動詞ひとつひとつについて、辞書を引いた時に、憶えていく以外に方法はないのです。辞書には必ず、ntr.(自動詞)とか tr.(他動詞)という注記がついています。ntr. は ne transitiva、tr. は transitiva の略字です。

でも、その略字のあと、日本語訳をそのまま注意深く憶えこんでいく方が実際的です。

fini. tr. 終える、(仕事などを) すます

終える の え を見落としたり、終る(おわる)とあわてて憶えこんだりしてしまわないように。

veki. tr. 呼びさます、目をさまさす

そのまま丸呑みこみにしてほしいものです。

時にひとつの動詞で、他動詞・自動詞 両方やってるのもあります。

pensi. ntr., (動) tr. 思う、考える。

この時、pensi のあとに、どんな前置詞を使うか、辞書には例文としてのせたり、[] の中に使うべき前置詞を示したりしていますから、注意して憶えておきます。

pensi pri iu · io

iu は人のこと、誰かのことを思う。

io は、事柄、何かのことを考える。

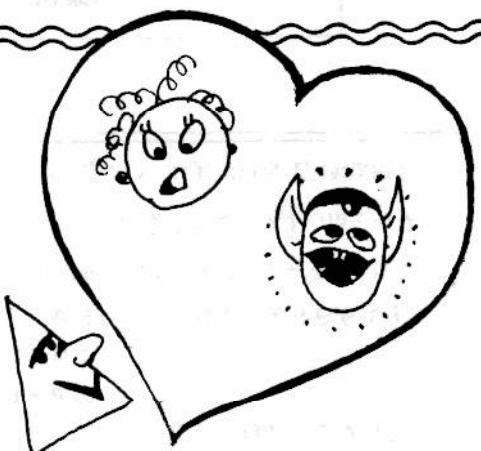
元来、自動詞なのに、pri などと合成して、他動詞になるものもあります。

ridi (ntr.) 笑う

priridi (tr.) (人を) 笑う；からかう。

"Dum kverelo, edzino ekscite krias al sia edzo: "Estus pli bone se mi edziniĝus kun diablo, ol kun vi..."

"Maleble," rebatas la edzo, "Geedziĝo inter proksimaj parencoj estas malpermesita!"



(Verkita de Henri Knobbs el Nîmes)



ESPERANTO の あそび - (6) -

今回の応募は、お2人だけで、さびしいことでした。

この企画も、ここまでかと思われます。

よりよく生きようとする
親の後ろ姿が
子どもを育てる

応募の皆さん、

どうも ありがとうございました。 前田

Celante pli feliĉan vivadon
patro diligentas.
Je patra bildo, infanoj kreskas.

-TANAKA-

Etulojn edukas
la dorso de l' patro
volanta vivi pli bone.

-R. Okumura

【編集後記】発行が遅れていて申し訳ありません。2カ月に1回のペースを取り戻すまで、頑張りたいと思います。原稿を送っていただければ、速やかに掲載したいと考えていますので、ご協力おねがいします。ところで来年の世界大会は北欧です。日本大会は「港町横浜」、参加しませんか。

[1995年 大会] : ☆UEA 7月22日~29日 フィンランド・タンペレ。
(1996年はチェコのプラハ、97年はオーストラリア
のアデレード)

☆SAT 7月15日~22日 スロベニアのマリボール
☆日本大会 10月13日(金)、14日(土)、15日(日)
横浜市 横浜テクノタワーホテルファミール

1995年2月 [編集] 前田米美 〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA Januaro, Februaro 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (*dumonata*) N-ro 84

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakt を読む No. 2

FUKUMOTO Hirotsugu

前回に引き続いて TEJO の機関誌『コンタクト』のザメンホフの末娘リディアについての記事を一緒に読んでいきます。

<< Lidja >>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.2

Ludoviko kaj lia edzino Klara vizitis ĉiun Universalan Kongreson kune, sed Lidja havis nenian emon lerni Esperanton. En 1909, kiam oni festis la 50-an naskiĝtagon de Zamenhof, multaj esperantistoj kunvenis kaj faris gratulajn paroladojn. Lidja, siatempe kvinjara knabineteto, post ioma aŭskultado enjetis: "Pri kio tiuj homoj parol-

(単語の解説)

edz-in-o 妻、 viziti 訪れる、 kun-e 一緒に、 nenia どの様な~もない、 em-o 傾向、 ~しようとする気持ち、 festi 祝う、 naskiĝ-tago 誕生日、 kun-ven-i 集合する、 gratul-i 喜びを言う、 ~の祝いを述べる、 parol-ad-o 演説、 談話、 sia-temp-e その当時に、 knab-in-et-o 小さな女の子、 post iom-a aŭskult-ad-o 少し聞いていた後で、 en-ĵet-i 投げ入れる、 ここでは言葉を投げかけたのぐらいの意味、 parol-aĉ-i ここに -aĉ- が付いているのは、 リディアにとって何やら分からぬ言葉で話

» aĉas? Mi komprenas eĉ ne unu vorton!“
kaj proteste forlasis la feston. Oni
havas fotojn de Lidja el tiu tempo, kiuj
montras tre seriozan personeton kun
vizaĝo esprimanta kvazaŭ sekretan,
kaŝitan doloron. Ankaŭ kiel virino ŝi
havis tiun seriozan mienon.

していることからの表現であろう。 eĉ ne
～さえ～ない、 proteste 反抗して、抗議
して、 for-lasi 立ち去る、見捨てる、放
ったらかしにして行ってしまう、 montri
指す、表す、 serioza 真面目な、謹厳な、
person-et-o 小さい人物、人格、 vizaĝo
顔、 esprimi 表現する、（表情など）を示
す、 kvazaŭ まるで～のよう、 sekreta

秘密の、 kaŝ-it-a 隠された、秘められた、 doloro 痛み、苦しみ、苦痛、 ankaŭ ～もまた、も、
kiel ～のように、～として、どのように、 vir-in-o 女、 mieno 顔つき、顔（の表情）、

【試訳】 ルドビコ（ザメンホフ博士のこと）と彼の妻クララは世界大会にいつも一緒に出かけていたが、リディアはエスペラントを学ぼうという気が全くなかった。1909年に、ザメンホフの50歳の誕生日を祝ったとき、多くのエスペランチストが集まり、お祝いのあいさつをした。当時5歳の少女だったリディアは、ちょっと聞いた後で、『何を変なこと言っているの。私にはちっとも分からないわ。』と言って、祝いの席を飛び出してしまった。そのころの彼女の写真が残っているが、秘密の隠された苦しみを表している顔つきをした、とてもきまじめな性格を示している。また女性らしい、まじめな顔つきをしている。

Ĉar la Universala Kongreso de 1913
okazos en Svislando, kie ŝiaj gefratoj
vivas, oni atendis, ke la naŭjara Lidja
kune kun la gepatroj vojaĝos tien.
Grandega problemo tamen estis, ke
Lidja obstine ne volis lerni Esperanton

okazos 開催されようとしていた、 kie こ
こでは関係副詞で前のSvislando を受けて
いる、 atendi (単に) 待つ、 (良いこと)
を期待する、 (悪いこと) を待ち受ける、
naŭjara 9歳の、 kune kun ~ と一緒に、
problemo estis, ke 問題は ke 以下のこ
とであった、 obstine 頑固に、 komprenis

„ kaj komprenis nur kelkajn vortojn.
Tiam la patrino klarigis al ŝi, ke ŝi
devos resti hejme, se ŝi ne lernos la
lingvon, kaj tio finfine efikis. En ses
semajnoj Lidja lernis tiom, ke ŝi povis
interkomuniigi en Esperanto.

nur kelkajn vortojn 単に数語を理解した
→たった数語しか理解できなかった、tiam
そのとき、そこで、klar-ig-i 明らかにする
る、説明する、はっきりさせる、resti
hejme 家に留まる、se ne もし～しないな
らば、finfine やっと、ようやく、結局、
ついに、efiki 効果をもたらす、効き目が

ある、en ses semajnoj 6週間で、tiom, ke ~ それはど～したので、ke以下のようになる、
ke 以下であるほど、それほど～した、inter-komunik-iĝ-i 理解し合える、コミュニケーション
できる、お互いに話ができる、

【試訳】1913年の世界大会が、彼女の兄姉の住んでいるスイスで行われることになっていた
ので、9歳のリディアも両親と一緒にそこへ旅行するものと期待されていた。大きな問題はリデ
ィアが頑固にエスペラントを学ぼうとせず、たったいくつかの単語しか理解出来なかつたこと
であった。そこで母は、もしも彼女が言葉を学ばないなら、家に残らなくてはならないのだよと、
リディアに言い含めた。ようやくこれが功を奏した。リディアは6週間の間勉強したので、エス
ペラントで話をして、理解できるほどになった。

Jam en tiu tempo multaj bahaanoj
estis ankaŭ esperantistoj. Ĝis hodiaŭ
estas konataj al bahaanoj la nomoj de
Agnes Alexander, kiu vivis longan
tempon en Japanujo, John Esslemont,
kiu verkis fundamentan libron pri la
Bahaa Kredo, Bahá'u'lláh kaj la nova

en tiu tempo 当時、jam 既に、koni ~を
知っている、estas konata al ~ に知
られている、longan tempon 長い間、verki
著述する、fundamenta libro 基本的な書
物、Bahá'u'lláh kaj la nova epoko バハ
ウラと新しい時代（本の題名）、far-iĝ-i
～になる、intima 親しい、aperi 出現す
る、出る、現れる、unuaj artikoloj 最初

epoko, Martha Root, kiu farigis intima amikino de Lidja. Tiam aperis la unuaj artikoloj pri la bahaa religio en Esperanto, tiel ke d-ro Zamenhof estis bone informita pri ĝi.

のいくつかの記事、bahaa religio バハイ教、バハイ教は1844年に興ったペルシャのバービ教義 Babismo（万有神教的で高い道徳と、両性の平等を唱える）の一派で、1863年 Mirza Husayn Ali を教主として成立した宗教。

【試訳】当時すでに、多くのバハイ教徒がエスペラントにもなっていました。バハイ教徒の間で今日まで知られている名前は、日本に永く住んでいたアグネス・アレクサンダー、バハイ教についての基本的な書物である「バハウラと新しい時代」を書いたジョン・エスルモント、リディアの親しい友達となったマルサ・ルートです。その当時、バハイ教についてのエスペラントで書かれた最初のいくつかの記事が出たので、ザメンホフはバハイ教についてよく知っていた。

La sano de d-ro Zamenhof neniam estis stabila, li suferis pro kormalsano kaj mortis en la Unua Mondmilito, la 14-an de aprilo 1917, kiam Lidja estis nur 13-jara. Tiutempe ŝi perfekte regis Esperanton kaj faris unuajn provojn traduki el la pola lingvo en la internacian. Ŝia kuzo Stephen raportis, ke ŝi ĉiam estis okupita pri tradukado kaj estis konvinkita, ke ŝi devos daŭrigi la laboron de la tro frue mortinta patro.

sano 健康、neniam 決して～でない、いつも～でない、stabila 安定した、suferi pro ～で苦しむ、kor-mal-sano 心臓の病気、morti 死ぬ、La Unua Mondmilito 第一次世界大戦、perfekte 完全に、regi 支配する、regi Esperanton エスペラントを完全にものにしていた、unuaj provoj 最初のいくつかの試み、traduki 翻訳する、el 出所、en + --n 行き先、kuzo いとこ、raporti 報告する、estas okupita 忙しい、traduk-ad-o 翻訳、konvinki 確信させる、estas konvinkita 確信する、daŭr-ig-i 続ける、tro あまりに、mortinta 死んだ

=====

〔試訳〕ザメンホフの健康状態は、いつも不安定であった。彼は心臓病を患っていて、第一次世界大戦中、1917年4月14日に亡くなった。その時リディアはまだ13歳だった。当時彼女は完全にエスペラントをマスターしていて、ポーランド語からエスペラントへの翻訳をいくつか試みかけていた。彼女のいとこのステファンは、彼女はいつも翻訳に忙しく、あまりに早く亡くなった父の仕事を続けなければならぬと確信していた、と伝えている。

=====

【本の紹介】リディア（エスペラントの娘 リディア・ザメンホフの生涯）ウェンディー・ヘラー著、水野義明訳、近代文藝社、488頁、1400円、

J E I（日本エスペラント学会）の機関誌「エスペラント」の1995年1月号17頁の『わたしの出した1冊の本』に訳者本人によるこの本の紹介が出ている。これによると、バハイ教のことを、「前世紀の中ごろ、イランに起こった宗教で、全人類の平和と統一を究極の目的とし、もろもろの宗教の対立を克服するという趣旨である。」とし、「エスペラントの『内在思想』——ホマラニスモに共通するところも多い」と説明している。

また、「リディアはひとことで言えば『頑固一徹な』女性だ。いったん決心したら、なにがなんでもやりとげようとする。訳書の帯に要約しているように、『父の事業を受け継ぎ、諸民族の友好と調和の事業に身を捧げ、戦火の迫るヨーロッパにあって戦争の廃絶と女性の自立を訴え、ついにナチの強制収容所の露と消えた』。短くも感動的な一生だ。」とある。

(バベルの塔) ① La germana konkera Buropon. ドイツ語がヨーロッパを席巻。

東ヨーロッパを中心にドイツ語を学習する人が爆発的に伸びていて、少なくとも1300万人に達している。主に経済的に役に立つことで、勉強する人が殺到しているが、教師は不足しているし、ゲーテやトーマス・マンの1行すら読めるわけではない。（Heroldo de E. (N-ro 15) 1994.nov.16 より） 金にならないエスペラントの将来は如何に？ Sajnas al mi ke iom pli malfavore al Esperanto en nunaj eks-socialismaj landoj. Ĉu ne?

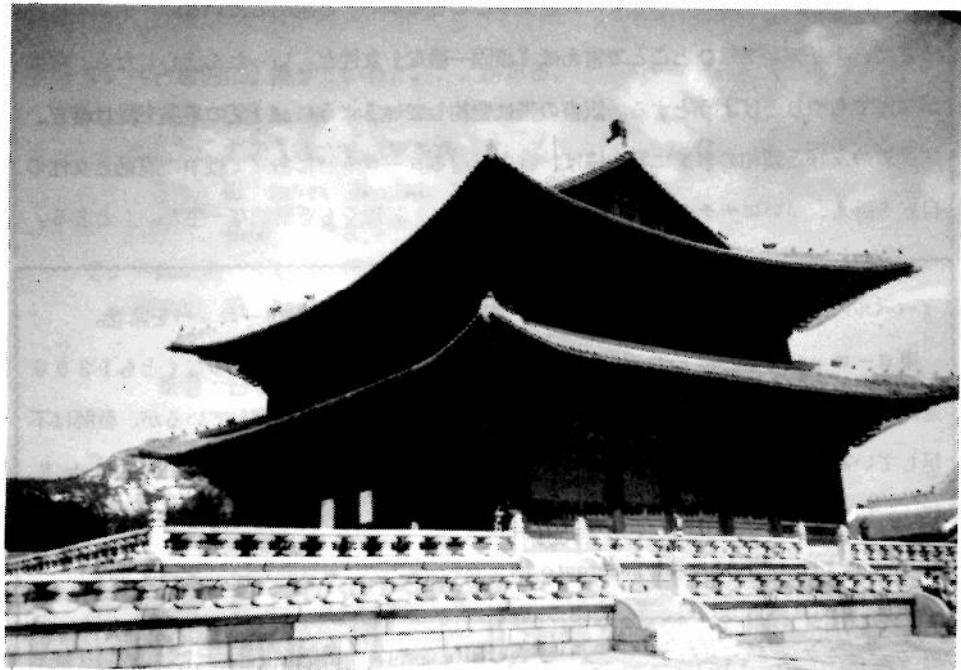
#####
ソウルの街角で No. 2
#####

続きを書くにあたって市民図書館で簡単な朝鮮の歴史を借りてきたところ、この公園は「パゴダ公園」となっている。パゴダがあることから、通称としてこう呼ばれているかも知れない。韓国では歴史的事件をその月日の数字を使って呼ぶことが多くて、この運動は3・1独立運動となっている。

この独立闘争の時、日本人警官が撲殺されたことに対する報復で、日本軍が婦女子を含

む多数の村民を教会に閉じこめ焼き殺すということをはじめ、銃剣による厳しい弾圧をして、独立運動を鎮圧した。この公園には独立闘争の記念レリーフがあるとのことだが、そのときは知らなくて見られなかった

地図を見ると景福宮の方向に、曹渓寺(チヨゲサ)という仏教寺院があった。韓国ではまだ寺を一度も見ていないので、方角を定めて歩き始めた。案内書によるとここは韓国佛教曹渓宗の総本山だそうですが境内はせまく建物も多くなかった。本殿では数人の女性信者が熱心にお祈りをしていた。五体倒置ほどではないが、膝を折って頭を床に付ける



様にして何度も何度も祈っている。本を読むと、韓国ではキリスト教が盛んで、ソウルにも大きな教会や聖堂が幾つもあるとのことです。今改まって地図を見てみると、キリスト神学大学とかカトリック大学、監理教神学大学など宗教系の大学も多く見つかりました。

韓国では教会に通う人も多く、仏教にせよキリスト教にせよ熱心な信者が多いようである。上海でホテルの近くの寺に入ったとき、同じように膝をついて頭を付けて何度もお祈りしている人が何人もいたのに驚いたことを思い出した。そしてそのとき、若い母親と子供も同じようにしているのを見て、共産主義中国でも信仰心をなくすことはできないのだと思った。中国では荒れていた寺院を修復しているが、僧侶が少ないので、即席の公務員僧侶もいるとのこと、何にしても観光政策としては成功かもしれない。

寺から世宗路（景福宮の前の大通り、市役所の方へ通じている）へ抜ける途中に機動隊が立っているので、地図を見るとアメリカ大使館であった。世宗路を渡り世宗文化会館に行き、喫茶に入ってコーヒーを飲む。メニューは、コーヒー、紅茶、ジュース、コーラであった。世宗文化会館に行くが、入り口に誰もいない。勝手に入って大ホールを覗いてみ

たが何もやっていなかった。

世宗路には大きな李舜臣将軍の銅像が立っている。この人物は秀吉の朝鮮侵略（日本では朝鮮征伐と呼ばれ、朝鮮では壬辰倭乱 [イムジンウエラン] と言う）の時に、水軍を率いて、亀甲（きっこう）船という戦船でもって日本の水軍を破り、制海権を確保して日本の補給線を押さえた。この後日本軍は占領地を維持できず、次第に劣勢になり南部沿岸地方へ撤退した。15万人もの軍を派遣し、朝鮮全土を荒廃させたこの戦争は7年後に秀吉が死亡したことで終了した。

この時、朝鮮の多くの人々が日本に連れてこられた。この中に、朱子学の学者や、多くの陶工が含まれていた。この人たちを始祖として磁器の技術が伝えられ、日本の陶器が発展してきた。しかし、朝鮮では技術を伝える陶工がほとんど残っていなかったと言われている。

また世宗（セジョン）は李氏朝鮮の王で、ハングルを創生したことで有名である。私は朝鮮が漢字文化圏にあったので、ハングルのような表音文字が生まれたのではないかと思う。なぜならその他の表音文字は横又は縦に順番に並べていく方法で単語、文章を作っていくが、ハングルでは上下左右に組み合わせ

て、一つの音節を漢字のようなかたまりにまとめて、それをつなげていくという独特の仕組みを創造しているからである。

日本と同様、学問、行政の中では漢字が中心となっていたので、日本の「かな」と同様に「ハングル」は最初は知識人の文字でなかったが、今ではハングル優先で、新聞や街頭看板でも漢字が少ない。この点ではむしろ残念に思うのは、勝手な思いかもしれない。漢字で書かれていれば、私達日本人にとって多くの言葉がすぐ理解できる。しかし韓国、北朝鮮にとって漢字を制限することが自国の文化を守るために必要であるのだろう。

鐘路の通り（この下を地下鉄1号線が通っている）を戻り、地下鉄の駅「鐘閣」のある大きな交差点の所に来る。機動隊のバスが止まっており、警官がたくさんいるのでどうしたのか思っていると、交差点のそばの小さな広場で集会が開かれていた。何かの抗議集会であるが、落ちているビラを拾って読んではみても、韓国語で分からなかった。参加者は50名そこそこの数であり、アジ演説をしているが、さほど緊張感はなかった。

(続く)

(福本博次)



日本語とエスペラントのはざまで

- (4) -

前田 米美

[私には主人がいますと妻寝言] (毎日新聞万能川柳)

近頃の妻は翔んでいるそうで。「オノオノガタ、ゴユダンメサルナ。」こんな日本語もあるといったら、外国の日本語愛好者は目を白黒させることでしょう。

さて、「私には主人がいます。」は、エスペラントではどう訳しますか。

Por mi edzo estas. 逐語訳。私のために主人がある。そして、2人のために、世界はある。(古いですね)

Edzo estas ĉe mia domo. たしかに主人は家で留守番。

でも、そういうことも含めて、普通のエスペラント訳は

Mi havas edzon. だそうです。

havas ... ? 一瞬へんな連想をする人もいます。おしゃか様のように、手のひらにのせて「持ってる」の？ それとも主人の ... ?

今回は、この havas でクダを巻いてみようと思います。(全然飲めないくせに)

むかし、(と言ってもう20年ほど前)、日本でできたすばらしいエスペラント入門テキスト『La Teksto Unua』を、フランス人に送ってあげたら、その中の、Mia patro havas 53 jarojn.に目をつけて、手紙で、「日本人は年令に havas を使う言い方はしないのではないか。estas 53 jara でいいのでは」と書いてきました。そういうえば、私は、彼への手紙の中では、年令を言うのにいつも estas を使っていました。

Havas はふつう「持っている」と訳して、単語帳にもそう書いて、暗記して、安心していました。何才です は 「です」だから、estas だろうと。

La Teksto Unua の「紙上講習会」という別冊説明書を見ると、

[「x x才だ」というのを、「x x才を持っている」 A havas xx jarojn と表現します。また、A estas xx jara.とも いいます。] と説明しています。

LUK (La Unua Kursolibro) の別冊「講師用手引」では、

[(1行目) ... havas 55 jarojn. : 「～才です」という表現は、また、(teksto) 12 行目 ... estas 23 jara とも言え、ここでは両方出しておきました。] (Leciono 10)

英語を少しやった方なら、have が文の中によく出てきて、時にはそのあとに、P.P.(過去分詞)などが、くっついてきたりするのはご存知。これには今でも私は頭が痛くなります。それほど、have は欧米語では、いろんなイミを持たせて、習慣化して、それがエスペラントにも入ってきてるので、全くうるさいのです。

しかし中には、冒頭の例文 「私には主人がいます。」 Mi havas edzon を、別の日本語の表現で、「私は 亭主を持ちます。」というのがあるのを見付けて、「はざま」居士の目が光り、havas と「持つ」のいろんなイミの中に、重なる部分があるらしいということで、クダを巻いてみる気になったのです。

「私は 3人の子持ちです。」 Mi havas 3 gefilojn.

(日本語の) 事主が (エスペラントの)
持つ いる havas



そこで、「エスペラント小辞典」の havi をひいて、しらべてみました。

日本語の「持つ」と重なるものに ◎印

そうでないものに ×印

微妙なものに △印 をつけてみました。

1. (一般的に)持っている, . . . がある。

例文① Li havas grandan domon.

あの人は大きな家を持つている。 ◎

Mi havas hundon.

私は 犬をかっている。 ×

2. =posedi (財産、持物、権利など)所持・所有する。

例文② Vi havas rajton je libero.

あなたには自由の権利がある。 △

筆者: 日本語では、財産などは「持っている」と言うことが多い。

持物、権利などにも言える。 ○

3. =porti (身辺に)持ちあわす、たずさえる、持參する。

例文③ Ĉu vi havas krajonon?

鉛筆を(いま、ここに)持っているか? ◎

4. (感情、意図などを)いだいている。

例文④ Ŝi havis teruran malamon kontraŭ li.

彼女は彼に 恐ろしい憎しみを いだいていた。△

筆者：Mi havas malfidon kontraū(al) li.

私は彼に 不信感をもっている。 ◎

5. [sur] 身につけている、着て・かぶって・はいている。

(= esti vestita per)

例文⑤ Li havas ĉapelon sur si + sur la kapo.

かれは帽子をかぶっている。 X

日本語で「着る」を考えると、まず頭に浮かぶエスペラントは、*vesti*、ところがこれは他動詞「着せる」ですから、*estas vestita*... あと、どんな前置詞を使うのですか？ そう、*per*と憶えておかなくては...

「かぶる」はどうしよう。*surmeti*? ... そして前置詞は *sur*? 「靴をはく」は *surmeti* でなく *submeti*? ちがうかな。というのが初心者の悩み。

そうなると、いわゆる「着用」は、*havas ~ n sur* を あたまから 憶えておく方が 便利で気楽かも知れません。

日本語からすれば、この *havas* は変な単語ですが、エスペラントには、日本語のように、「かぶる」「はく」「（手袋を）はめる」「（めがねを）かける」などという多彩な表現がないようなので、ひとつの *havas* で、まとめて憶ておくのが、便利なようです。

但し、エスペラントでしゃべる場合、日本語を先に頭に浮かべたりすると、*havas* がなかなか出てこない。エスペラントに没入して、エスペラントで物を考える境地に入らないと、*havas* が出てこないでしょう。

エスペラント文化（「ことば」は文化の重要な要素）を理解体得していくには、このくらいの許容包容力も必要でしょう。

そんな気持ちで、「エスペラント小辞典」の *havi* の項の、21コ！の訳をゆっくり眺めて、日本語との重なりを考えていくと、少しばらしくなります。

LUK(La Unua Kursolibro) の誌上講座、18課の解説 (p.40) では、*havas* の用例をテキストの中から、うまくまとめられています。

[.... この *havas* は実に幅広く活用されます。今までにやっただけでも.... Mi havas demandon. 質問があります。 Mi havas du gefratojn. きょうだいは2人。 Ni havis kongreson. 大会を開いた。 Ĝi havis 2300 kongresanojn. 2300人の参加者があった。 Li havas 26 jarojn. 26才だ。 Kiun daton ni havas hodiaŭ? きょうは何日ですか。 Si havas belajn okulojn. 目がきれいなんだ。]

さてこんどは逆に、「日本語エスペラント辞典」で「持つ」を索いてみました。日本語の「持つ」にも、ずいぶんいろんな意味を、たくさん（勝手に？）持たせているのがわかりました。

「会費は各自持ち」負担	<i>šarĝi sin</i>	×
「3年生を受け持つ」担任、持ち場	<i>dejori</i>	○
	<i>havi respondecon pri</i>	~
「持つ持たれつ」(何を持つのだろう)		×
	<i>helpi unu la alian</i>	~
「この仕事は彼を持ってこいだ」適任	<i>konvena, taŭga, lia sperto</i>	×
「持つて回った言い方」えん曲、遠回し	<i>nerekta parolmaniero</i>	×
	<i>aludo, sugesto.</i>	
	<i>delikata parolturno</i>	
「持ちこたえる」「十年は持つ」	<i>rezisti, elteni</i>	×
久しきに耐える 病人など病に耐える		
「持てる」 好評	<i>esti favorata</i>	×
	<i>amata, ŝatata</i>	

広辞苑などの日本語の古い辞典で、「持つ」のあたりを眺めていたら、面白いものが目にとまりました。

「そこへ持ってきて」更に、その上に *krome, plue* ×
 新しい日本語辞典(例えば「現代国語例解辞典」)には、
 「会合を持つ」というものありました。 *havas* と重なります。 ○
 古い辞典には見当たりません。
 これ、ひょっとしたら、欧米語からの輸入でしょうか。

たのしい「辞書遊び」、年金生活者のヒマツブシ? ご精読、多謝。



「まちがいを気にせず、思いきって」

(エスペラントおじさんと子どもの交流)

UEA(万国エスペラント協会)には、子どもや初心者のエスペラント学習を助けようという組織がいくつかあります。

- ① *Infanoj Ĉirkaŭ la Mondo* アメリカ・サンティエゴ
- ② *Geonkloj esperantistaj* イギリス
- ③ *Mastora Klubo de Esperanto* ポーランド

子どもたちや初心の人達のエスペラント文通では、経験不足のためお互いによく理解し合うことができないまま、立ち消えになってしまうことが多いのです。それを、

少し経験のある大人が助けてあげようというクラブです。

②の Geonkloj esperantistaj については、以前本誌でも紹介したことがあったと思いますが、これは、16才までの子どもたちと、世界の「おじさん、おばさんたち」とを結ぶクラブで、奥村林蔵先生も加盟しておられます。以下は、奥村先生が投稿してくださったものですが、ポーランドの14才の少女に宛てた手紙の一例です。

簡潔なエスペラント文で、やさしくはげましておられて、私たちにも参考になると 思います。

Kara Fraúlino Agnieszka,

Via letero kaj bildkarto tre plaças al mi. Koran dankon.

Mi ne povas ludi gitaron, nek pianon. Mia nepino Kaoru iom lerte ludas pianon. Si estas 17-jara.

Esperanto estas malfacile por japanoj, ĉar la lingva sistemo estas malsama for de eŭropaj lingvoj. Al mi ŝajnas ke pola popolo facile lernas Esperanton.

Sed vi skribis ke Esperanto estas malfacila ankaú al vi, al pola lernantino.

Mi ricevis, de vi jam, dekkelkajn leterojn. Kaj ankaú nun estas eraroj en la frazoj. Mi bone komprenas la enhavon. Tamen diligenta knabino kiel vi, devas pli kaj pli bonigi kaj skribi sen-eraran malmulte-eraran leteron.

Por tio, mi korektis vian nunan leteron per ruĝa inko.

Bela Agnieszka skribas belan Esperanton.

Sed, skribu kurage, eĉ kun eraroj. Mi ĉiam akceptos kun plezuro. Klopodu plibonigi ... jen estas nia progreso!

En lernejo vi lernas tre tre bone. Nu en letero vi skribos tre tre bone. Mi esperas.

Atendante vian leteron,

1994-10-19

via japana onklo-amiko

(subskribo)

Hodiaú forno-purigisto venis kaj preparis por venonta vintro.

1994年会計報告（平成5年12月6日～平成6年12月10日）

収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越	75,038	
会費	88,000	当日会費 10名、会費 2名
会員割引	5,440	
寄付	25,350	相川節子様より切手 80x20
預金利子	1,623	
	195,451	

支出の部

項目	金額	摘要
通信費	30,190	切手、はがき代
印刷費	46,450	VM印刷代
事務用品	1,473	封筒、紙やき代
会議費	19,136	乙祭、Doroteo歓迎、他
	97,249	

収入の部	195,451
支出の部	97,249
次年へ繰越	98,202

ザメンホフ祭報告 (Movado 1回)



★和歌山：12月10日(11月号記載の18日は誤り)午後1時からサロン「会」で開催、参加者は12人。江川治邦さんの「アタリモノ」(景品付福引)と歌、西原未佳子さんが用意した景品付bingo、亀井幸枝さん演出の和文エス説実演「愛の告白」などを楽しんだ。

WAKAYAMA

March, April 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 85

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakt o を読む No. 3

FUKUMOTO Hirotugu

3回目になりますが、引き続いてリディアについての記事を一緒に読んでいきます。

説明や訳で間違っているところがあれば、ご遠慮無く指摘して下さればありがとうございます。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.3

En 1921, en la aĝo de 17 jaroj, Lidja finis siajn gimnaziajn studojn kaj estis akceptita de la varsovia universitato kiel studento de juro. Kaj tri jarojn poste, en 1924, ŝi unafoje publike enpaŝis en Universala Kongreso, okaze de kunrido de la Akademio kaj la Lingva Komitato.

(単語の解説)

gimnazio 中学校（高等学校）、akcepti 受け入れる、juro 法、法制、tri jarojn poste 3年後で、paši 歩く、歩を運ぶ、enpaši 踏み入れる、Universala Kongreso 世界大会、okaze de ～に際して、～の機会に、la Akademio 学士院、学園、学院（ここではエスペラントの言語のありかたについて、検討している、エスペラントの権威ある学者で作られているエスペラントアカデミーオのこと）、Lingva Komitato 言語委員会、

[試訳] 1921年、17歳の時に、リディアは中学校の学業を終えて、法学の学生としてワルシャワの大学に受け入れられた。そして、3年後の1924年、エスペラント学士院（アカデミー）と言語委員会の会合を機会に、世界大会へ公に足を踏み入れたのでした。

En 1925 Lidja Zamenhof finis siajn studojn kaj ekhavis la akademian gradon de magistro pri juro. Tio tamen ne kondukis aŭtomate al iu profesio, des pli ĉar Lidja estis judo, por kiu ŝtata ofico estis praktike neatingebla. Aliflanke, ŝi ne interesigis pri dommastrado kaj neniam sentis emon al edzinigo. Eĉ kuiris ŝi neniam lernis. Por ŝi estis klare, ke ŝi iel dediĉos sian vivon al la idealoj zamenhofaj. Esperantujo estis ŝia hejmo.

fini 終える、終了させる、finigi 終わる、magistro 学士、修士、akademia grado 学位、tamen けれども、～とはいえ、konduki 導く、案内して行く、aŭtomate 自動的に、profesio 職業、des pli なおさら、judo ユダヤ人、ŝtata 国家の、ofico 事務、職務、praktike 実質的に、実用的に、atingi 着く、届く、ne-ating-ebl-a 到達することができない、aliflanke 一方では、dommastrado 家事、emo 傾向、意向、好み、edz-in-ig-o 妻になること、結婚、naniam 決して～しない、eĉ さえ、kuiris 料理をする、por ŝi estis klare, ke 彼女にとって ke 以下のことがはっきりしていた、

iel なんとかして、とにかく、どうにかして、dediĉi 挿げる、vivo 一生、生命、生活、idealo 理想、Esperant-uj-o エスペラント界、

[試訳] 1925年に、リディア・ザメンホフは学業を終えて、法学士の学位を手に入れた。しかしながら、そのことは自動的になんらかの職業につながるものではなく、むしろ、彼女がユダヤ人であったから、彼女にとって実質的に国家の仕事は手の届かないものであった。一方彼女は家事には全然興味を示さず、そして結婚する気はさらさらなかった。料理さえも全く習わなかっ

た。彼女にとってハッキリしていたことは、なんとかしてザメンホフの理想に自分の一生を捧げようということであった。エスペラント界は彼女の家庭だった。

Dum la Ĝeneva Universala Kongreso en 1925 okazis fakkunveno de la bahaaj esperantistoj, al kiu Lidja estis invitita. Si tute ne deziris tien iri, sed fine pro ĝentileco Si tamen partoprenis. Tie ŝi konatiĝis kun Adelbert Mühlischlegel kaj Martha Root, famaj bahaanoj. Ankaŭ la fratino de Lidja, Sofia, partoprenis la agranĝon, dum kiu ŝi legis artikolon de sia patro pri la neceso de universala religio.

fak-kunveno 分科会、専門部会、bahaa バハイ教の、estis invit-it-a 招待された、tute 全く、全然、deziri ～したいと思う、tien iri そこへ行く、fine 終わりには、ついには、pro ĝentil-ec-o 礼儀正しいゆえに、tamen しかしながら、partopreni 参加する、koni (人を) 見知っている、kon-at-o (知られている人→) 知人、知り合い、kon-at-iĝ-i kun ～と知り合いになる、fama 有名な、baha-an-o バハイ教徒、ankaŭ ～もまた、arango 手はず、手配、ここでは分科会の催しのこと、artikolo 記事、論説、neceso 必要性、universala

普遍的な、世界共通の、religio 宗教、*Si legis* の「*si*」はソフィアか？リディアか？、ここでは、「彼女」と訳したが、私は「ソフィア」であると思う。そう考えると、この会合が、リディアがバハイ教徒たちとつき合いを始めた契機になるからである。

[試訳] 1925年のジュネーヴの世界大会の間に、バハイ教徒のエスペランチストたちの会合が催され、そこへリディアが招待された。彼女は全くそこに行きたいと思わなかったが、礼儀を大切にして出席した。そこで彼女は有名なバハイ教徒のアーデルバート・ミュールシュレーゲルとマルサ・ルートに出会った。リディアの姉のソフィアもまたその会合に参加していて、その中で彼女は世界宗教の必要性についての父の論説を読んだ。

La sekvan jaron, 1926, oni finfine inaŭguris la Zamenhof-monumenton en Varsovio. Martha Root officiale reprezentis la bahaan religion kaj parolis pri "La Bahaa Movado kiel formo de homaranismo". Si restis du semajnojn en Varsovio kaj dormis kun Lidja en sama ĉambro. Ili fariĝis bonaj amikinoj, kvankam Lidja neniel volis akcepti la religiajn konvinkojn de Martha, des malpli, ĉar ŝi konsideris sin ateisto. Tamen, iom post iom Lidja konvinkiĝis pri la kredo kaj akceptis ĝin.

sekva 後に続く、finfine 遂に、inaŭguri 開会式・除幕式を行う、monumento 記念碑、oficiale 公式に、正式に、reprezentti 代表する、parolis pri ~について話す、formo 形式、形、kiel のような、として、resti 留まる、滞在する、残っている、du semajnojn = dum du semajno 2週間の間 (-n で時間的経過の前置詞の代わりをする)、dormi 眠る、en sama ĉambro 同じ部屋で、fari ~を作り、~をなす、fariĝ-i ~になる、kvankam ~であるけれども、~とはいうものの、neniel どうしても~ない、全然~ない、voli ~したいと思う、~する意志がある、akcepti 受け入れる、religio 宗教、konvinko 確信、des malpli むしろ少なく、konsideri みなす、ateisto 無神論者、tamen しかしながら、konvink-iĝ-i 確信する、kredo 信仰、

=====

[試訳] 次の年、1926年に、ワルシャワでザメンホフの記念碑の除幕式が催された。バハイ教を公式に代表して、マルサ・ルートは「ホマラニスモ（人類人主義）の形としてのバハイ運動」について話した。彼女はワルシャワに2週間滞在し、リディアと同じ部屋に寝泊まりした。リディアはむしろ自分を無神論者であると考えていたので、マルサの宗教的な確信を受け入れたいとはどうしても思えなかったのだが、彼らは良い友達になった。しかしながらリディアはだんだんとその教えに納得していき、それを受け入れたのでした。

=====

(バベルの塔) ② イタリアの文部大臣 (ministro pri publika instruado) D'Onofrio の言葉。『イタリアでの英語教育は、アメリカでコカコーラを注文する時の役にすら立たない』 ("instruado de la angla lingvo en Italio eĉ ne helpas por mendi Coca cola en Usono") (Helordo de Esperanto N-ro 15, 1994.nov.16)

(バベルの塔) ③ "Centoj da lingvoj malaperadas" 数百の言語が消滅し続けている。 Hodiaŭ la homaro parolas ĉirkaŭ 6000 lingvojn, duono da ili mortos.... スペイン人が新大陸を発見した時には、約2200の言葉があったが、今は600しか残っていない。その内250が次の世代で消えてしまうだろう。主に国の圧迫と、植民地主義、皆殺しによるものであった。 (Helordo de Esperanto N-ro 15, 1994.nov.16)

[エスペラント便覧を見てみると、1ページに世界の言語の数について書かれています。ここでは、『アメリカの言語学者グレイという人は、今は話されていない死語も含めて、世界の言語総数は2796だといっています』とあり。話す人の多い順に、中国語（4億5000万人）、英語、ヒンドゥスタニー語、ロシア語、スペイン語、ドイツ語、日本語、フランス語、マライ語、ベンガル語、ポルトガル語、イタリア語、アラブ語（5000万人）、「The Study of Language, 1952」)となっている。現在では人数も含め随分変化しているので、順位は変わっているであろう。また『もっとも話し手のすくない言語は、アイヌ語の一万数千、シベリアのギリ亞ーク語の約4000、カムチャダール語やユカギール語がそれ数百といわれている』とあるが、今ではアイヌ語を話す人はほとんどいないのではないか。社会党の代議士で初めてアイヌ語で国会質問をしたことが、先日話題になった。一部でアイヌ語の勉強会が続けられているとのことであるが、話し言葉として残していくのはなかなか大変なことだと思う。少数民族の存在すら認めない日本政府の考えがあり、在日韓国・朝鮮人に比較しても極めて少ない数であってみれば、大多数の日本人にとって『日本には少数民族はいない』という意識は、異質なものを村八分として排除していく『村社会日本』の現状からして当たり前かもしれない。『異質を認め、受け入れること』は『いじめ』問題の根本的な課題でもあるし、今後の日本人の心の国際化をすすめるポイントではないだろうか]

#####
ソウルの街角で N o. 3
#####

夕方の4時頃になっていた。昼飯も十分食べていなかったので、今晚は焼き肉にしたいと思いレストランを搜すことにした。集会を見ていた若い人に尋ねてみると、英語も通じず韓国語でも訊けず要領を得ない。

通りを越えて交差点を渡り、南大門路の方へ曲がる。曇ってきた空からとうとう雨になった。夕立とみて、ビルの軒下で雨の止むのを待つことにした。

このあたりは古くからの町の中心街であるが、大きなビルも多くなっていて、会社の事務所も沢山ありそうである。ビジネスマンやオーナーが雨の中を通りの向かいへ走っていく。雨はすぐには降り止まず、そのままで待っていた。

すると、私に話しかけてくるおじさんがいた。話しかけられることは予想していなかったので、一番最初に何と言ったのか覚えていないのだが、要は「日本人か」、「日本人だろう」ということで、私が日本人であることを確認しているのだった。「そうだ」と言うと、その後で、日本の植民地のときに大変で

あったということや、ハングルは日本語の力ナよりも優れているということや、その他色々と一人で話していた。雨の止むのを待っていて、特に急いでもいなかったので、適当に相槌を打って話につきあっていた。

そのうちに、少し小降りになってき、腹も空いてきたので、「今、韓国の焼き肉（カルビ）を食べたいと思って、レストランをさがしていたところなので、この近くにどこか良い所がないか」と尋ねて、「一緒に食べに行かないか」と誘ったところ、相手も暇なのか応じてきた。

食堂を探しに一緒に横道に入って行った。「このへんは高い」と言っていたが、少し歩いてから、私が「ここに入ろう」と決めて、焼き肉屋に入っていくと10組くらいのグループが食事できる、特に高級でも、汚くもない、適当な店だった。まだ5時前だったので、客は誰もいなくて、我々二人だけであった。焼き肉2人前と、御飯、ビール1本を注文した。

焼き肉は甘くて、おいしかった。量もまあまあ多く、たくさんの野菜やキムチを残してしまった。私もあまり量は食べないし、相手のおじさんも写真で見ての通り、背の低いやせた人であったし、遠慮もあったのか少しし

か 食べなかった。このようにして食べるのだと、たれの付け方や、野菜で包んで食べるようおしえてくれた。キムチもすすめてくれたが、漬け物がもともと余り好きではないのと、野菜も沢山だったので、味を見る程度にしたがそんなに辛くはなかった。

彼の話は、色々なことに及んでなかなか尽きることがなかった。兄弟が日本の長野の農業高校へ行っていたこと、彼の小学校時代の校長先生のことなど、日本語が流れ出てくるようで、彼がなんだか日本語を話したがっているようにも思えた。留学生の日本語などと違って、むしろ韓国人のなまりが感じられる

いようだった。小さい頃に身に付いた言葉というものが如何にその人の脳の中に残ってしまうものか、考えさせられた。

ある本で読んだことがあるが、朝鮮語を禁止され、日本語教育を受けた人々が、戦後独立してから、日本語を意識的に忘れようとしたということである。本当に人間は言葉を離れて生きていくことができないので、自分たちの言葉を話すことが禁止されるということは、どんなに不便で悲しいことであろうか。

後百年も、植民地であることが続いて、日本語教育が徹底してしたら、朝鮮文化の伝統を受け継いで行くことは大変困難なことであ



ったに違いない。

二宮尊徳を尊敬しているという。むしろ彼の中に日本人の原点を見るような気持ちであった。「柴かり、縄ない、薪を背負い、・・・」と二宮金次郎の歌を歌ってくれた。当時、内地はもちろんのこと、朝鮮などの外地でも、小学校には薪を背負って本を読んで歩いている、二宮金次郎の銅像があったということである。

彼にとっての子供時代は、自分たちの言葉である朝鮮語を話すこともできず、学校では日本語をしゃべらないといって殴られたりしたことでもあったようである。どんないやなことも含めて小さい頃のことは懐かしいものとして、思い出されるものかもしれない。

二宮尊徳の話から、「農業は大事なことであるから、あなたも農業をやりなさい」と言って、漢字で次のように書いてくれた。

農者（夫）天下之大本也

昔曰、聖君曰 不農者不食可也

不農食者念良小無

不食即死 無食即死 不食即百事不成

不農人皆是農者血汗食

農思不知者 何事食也

此道理何事不知也

余部

世人皆是 無識所行 何事無食也

曰、心眼大無識 不農人

嗚呼世人開眼大盲 外眼大明心眼大盲人也

何時心明 身土不二 食土之命

天地順應大自然造化

萬古不變農本大眞道

一樹花開天下同人

人類和親世界平和

韓国でも農業は余り好かれない仕事のようである。農業が大事にされていないと言っていた。韓国は儒教の国であり、労働の評価はどうであるのかよく知らないが、物の本によると偉くなると現場の仕事をしないのが韓国の考え方のようであり、いわゆる労働というものが日本以上に評価されない状況かもしれない。

彼の言わんとすることは、漢字を見てもある程度理解してもらえると思うが、『人間ものを食わないで何もできない、その食物を作るのは農民である、昔より農業は天下の大本である』というようなことであろう。面白い出会いであった。 福本博次 (終)

(エスペラントおじさんと子どもの交流・・・その2)

『こんどは日本の歴史のお話し』

むつかしい temo, どう簡潔にお話しするのでしょうか。

お相手は、チェコの13才の少女、学校でお友達に得意になって
ご披露したことでしょう。



Kara Lucie.

Bonan tagon. Saluton.

Dankon por via skribo pri la historio de Ĉehio.

Do mi skribos historion de Japanio.

En dia tempo, en la ĉielo, dio IZANAGI, kaj diino IZANAMI fondis insulon en la maro. Ĝin oni nomis JAMATO(Japanio). Ili naskis diinon AMATERASU(dio de tago), dion CUKIJOMI(dio de nokto), kaj petoleman dion SUSANOO. Dio NINIGI(nepo de AMATERASU) subenvenis al tero, al HJUUGA(provinco de Jamato). Lia kelk-generacia pranepo ZIMMU regis la tutan Jamato-n kaj sin nomis Unua TENNOO(reganto). Tio estas antaŭ 2654 jaroj. Ĝis nun la lando aŭ prosperis aŭ malprosperis, fine malvenkis en la Dua Mondomilito. Sed lia 128-a pranepo Tennoo AKIHITO nun regas la landon per helpo de bonaj ministroj. Lia edzino estas MIČIKO, filino de komercisto.

Kron-princo NARUHITO edziĝis al MASAKO(filino de diplomato).

Mi enmetas ilian bildon.

Kion japanoj mangas? Ordinare tre modestan oni mangas. Feste
... kiel vi vidas en bildo. (Mi bedaúras al vi ke tio estas nur
bildo.)

Frandu ! Bonan apetiton !!!

Ĝ I S ! Amike via

1994 11 06

(subskribo)



Kastora Klubo de Esperanto (ビーバークラブ)
(前号・p. 12参照)

これは、年令を問わず初心者向けの国際クラブで、いろんな国・信仰・文化に属する人々の友情を広めようという目的をもったクラブです。成人で初心者たちを助けようという人も入会できます。

成人の会費は、年8usドル、18才までの子ども・青年は 6usドル。会員になると、年6回発行の冊子 "Kara Amiko"と、住所録がもらえます。文通だけなら無料です。

問い合わせは：

p/a Barbara Chmielewska, ul.Puławska 3-11,

PL-02-515 Warszawa, Pollando. (TEL 480620)

子どもたちが、エスペラント学習のはげみになるように、その習熟度に応じて、

Bruna Kastoreto, Argenta Kastoreto, Ora Kastoreto
の3段階のタイトルがもらえます。

(UEA JARLIBRO 1994 より)

日本語とエスペラントのはざまで

- (5) -

前田 米美

『はざま』をていねいに読んで下さっている ある方から、「くだをまく肴」ということで、いいネタをいただきました。

日本語で『AはBです』というのは、"A estas B" にきまっている。誰も文句はないはず。と思っていたら大マチガイ。

喫茶店などで、「私はジュウス」、「私はコーヒーです」と言っているのが聞こえます。これをアメリカで、"I am coffee" と言って笑われたという話、聞いたことがあります。

考えてみると、『AはBです』という日本語には、直前のだれかからの質問により、また、言っている人の気持ちにより、estasでは、見当違いになることが、たくさんあるようです。

試みに、次の AとBを使ってエスペラントに訳してみてください。

A	B	
1. 私 は	コーヒー	です。
2. 私 は	フランス	です。
3. 来年 は	幼稚園	です。
4. 上 は	大学	です。
5. 春 は	曙	です。
6. 酒 は	大閑	です。
7. 夏 は	ミニ	です。
8. 朝 は	パン	です。
9. 明日 は	雨	です。
10. 頭 は	ショートカット	です。



日本語は、なんでも『・・・は・・・です。』で間に合う便利な、知っている人は誠に良くできた、知らない人には何が何だか分からぬ使いにくい言葉です。これを母国語とする我々、幸か不幸か。その『はざま』でナヤむのです。

さて、エスペラントに訳するに当り、問題の解釈のしかたで、訳文も変わってまいります。例えば、

1. 私はコーヒーです。　　は
*私はコーヒーをえらびます。
*私にコーヒーをください。
*私はコーヒーを注文します。
*どちらかといえば、私はコーヒーが好きです。
*そんな時、私はコーヒーを飲みます。
- といったぐい。訳する人は、その どれをとっても結構。
その際、訳する人は、いろいろ想像しています。

①前もっての他の人からの質問

「あなたは何にする？」

②その場の雰囲気

「ああ、やっと仕事が終った。何か飲む？」

恋人同志の夜明けの・・・

ここに出ている問題の中に、「選択」のイミをもったのが たくさんあるのに気がつきました。「どれにする？」 あるいは自分から好みを「選択」したりする気持ちです。そうすると *Mi preferas ... Mi elektas ...*となりましょうか。 けれど

2. 私はフランスです。　　はもっといろいろ想像されます。

*私はフランスへ行きたい。

*私の生れはフランスです。

3. 来年は幼稚園です。

子どもの成長をたのしむ親の気持ち。これは選択ではなく、主語は子どものようです。

4. も 3. と同じ。

- 5 ~ 8 は、すきなものを選択。でも、それぞれ *nuanco* がちがいますから、
単に *elektas* では素っけないようで。

9. 天気予報。 *prognozas* もいいでしょうが、*Bedaŭrinde* の気持ちもあるかも知れません。

10. 誰かの外見を「叙述」。

[補習問題]

こんなのがいかがでしょう。

夏は北海道です。

冬は和服です。

北は北海道です。

彼は天国です。

大石は内蔵助です。

羅生門は芥川です。

前号の修正：p. 10 のカットの左に、下のような線を入れるのを忘れていました。



Neologismoで、日本と欧米のエスペランチストの泥試合？

いや、これはりっぱな文化の花の交流！

(Heroldo de Esperanto 誌 1994 09 30より

奥村さんの投稿) —————

Aziaj kaj eŭropaj neologismoj

La temo de mia indigno estas la internacieco, la egalrajteco de nia lingvo, ali-esprime - pri la japana esperantista troa humileco kaj izoliteco. Eŭropaj (en mia senco 'ne-japanaj') esperantistoj ofte uzas vortojn kaj gramatikojn malfacile kompreneblajn al la japanaj esperantistoj. Niaj japanaj kleraj E-gvidantoj daŭre konsilas al ni "tiu esprimo estas nekomprenebla por eŭropanoj."

Ĉu en Eŭropo okazas same? Iliajn neologismojn ni klopozas kompreni kun granda peno. Ili do devas kompreni japaneskan esprimon kun la sama peno, ĉu ne?

Iuj gvidantoj riproĉas min pro mia sinteno, dirante ke se ni reciprokus kaj uzus niajn esprimojn, tio estus interjetado de koto. Mi ne konsentas pri tio. Se iliaj kaj niaj neologismoj estus fuŝaj esprimoj, certe tio estus koto-batalo, sed se la iliaj kaj la niaj estus bonaj vortoj, pli taûgaj ol tiuj antaŭaj, tiam tio estus kolektado de floroj kaj juveloj.

Okumura Rinzo (Japanio)

El "Heroldo de Esperanto" 30 septembro 1994



WAKAYAMA

Majyo, Junio 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ce MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 86

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakt を読む No. 4

FUKUMOTO Hirotugu

後数回は続きますが、引き続いてリディアについての記事と一緒に読んでいきます。

説明や訳で間違っているところがあれば、ご遠慮無く指摘して下さればありがとうございます。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.4

En 1926 Lidja partoprenis la bahaan kunvenon okaze de la Edinburga UK kun siaj gefratoj. Al tiu kunveno la fame konata sciencisto Auguste Forel, kies portreton hodiau montras la mil-frankaj svisaj monbiletoj, sendis salut-tegramon: "Longe vivu la universala religio de Bahá'u'lláh! Longe vivu la Internacia Lingvo Esperanto!". Estas

(単語の解説)

kunveno 集会、partopreni ~on ~に参する (=partopreni en ~o) 、bahaa バハイ教の、okaze de ~の際に、~を機会に、UK 世界大会 (Universala Kongreso) fame konata よく知られた、有名な、著名な、sciencisto 科学者、portreto ポートレート、肖像画、mil-franka 額面千フランの、mon-bileto 紙幣、salut-tegramo 祝賀電報、電報によるあいさつ、longe vivu 万歳！、universala religio 世界宗教、Bahá'u'lláh バハイ教の開祖、Abdu'l-Bahá 開祖の息子、el △ resulti

interese, ke el korespondado inter Forel kaj Abdu'l-Bahá, filo de la fondinto de bahaimo, rezultis verko nuntempe konata de cíu bahaano: *Letero al Forel*.

En tiu tempo Lidja komencis instrui Esperanton en Varsovio kaj verki artikolojn por *Pola Esperantisto*, per kio ŝi perlaboris iom da mono.

○ △から○が出来る、△より○が生まれる、verko 著作、作品、nuntempe 現在、baha-an-o バハイ教徒、Letero al Forel フォレルへの手紙という出版物、en tiu tempo 当時、komenci ~を始める、artikolo 記事、論文、Pola Esperantisto 「ポーラ・エスペラント」（当時のポーランドでの機関誌）、perlabori （お金を）稼ぐ、働いて金を得る、iom da mono 少しのお金

〔試訳〕 1926年、エдинバラの世界大会の時、リディアは兄弟達と一緒にバハイ教の集会に参加した。その集会には有名な科学者アウグスト・フォレルが電報でいさつ文を送ってきていた。ちなみに今では彼の肖像画は千フランのスイス紙幣に見ることができる。電文は「バハウラの世界宗教、万歳！」「国際語エスペラント、万歳！」であった。フォレルとバハイ教の創始者の息子、アブドゥル・バハとの間の文通から、今日バハイ教徒に知られている著作「フォレルへの手紙」ができたのは、興味深いことである。

当時リディアはワルシャワでエスペラントを教え始めていた。そして機関誌「ポーラ・エスペラント」のために記事を書き始め、そのことで少しのお金を稼いでいた。

En 1928, okaze de du bahaaj kunvenoj en la kadro de la UK de Antverpeno, Lidja faris unafoje publikajn paroladojn, kio sufice mirigis la esperantistojn, ĉar gis tiam

okaze de ~の機会に、en la kadro de ~の枠組みの中で、unu-a-foje 初めて、faris publikajn paroladojn 公に演説した、kio sufice mirigis の "kio" は前の文章（彼女が演説したこと）をさす、sufice 十分、mirig-i 驚かす、gis tiam

Si neniam konsentis pri tio kaj estis konsiderata kiel timema kaj retrīgema persono. La cetera Zamenhofa familio neniel kontrauis la konvertigojn de Lidja al la bahaa kredo, sed ili ankaŭ ne komprenis. En 1929 Lidja eĉ publikigis artikolon pri la bahaa religio en pollingva juda gazeto, kio ŝokis la familion kaj multe pli la judan komunumon. Tiutempe Lidja komencis traduki en Esperanton *Bahá'u'lláh kaj la nova epoko*, ĉe kio Martha Root kunhelpis. En 1930 Lidja vojaĝis al Hajfo, en Palestino, sankta loko por bahaanoj, kaj renkontis Shoghi Effendi, la tiaman gvidanton de la bahaa kredo.

それまでは、neniam 決して～しない、konsideri ～とみなす、esti konsiderata みなされている、tim-em-a 憶病な、re-tir-iĝ-em-a 引っ込み思案の、cetera 他の、残りの、neniel kontrauis どのような反対もしなかった、konvert-iĝ-on 改宗、konvertigo al la bahaa kredo バハイの教えに改宗すること、publikigi 出版する、pollingva juda gazeto ポーランド語のユダヤ人の雑誌、kio ŝokis の "kio" は前の文章全体を受ける、soki ショックを与える、la judan komunumon ユダヤ人社会、tiutempe 当時、Bahá'u'lláh kaj la nova epoko 「バハウラと新しい時代」（バハイ教の本、ĉe kio そのことに於いて、つまり翻訳することに於いて、kunhelpi 手助ける、vojaĝi 旅行する、Hajfo ハイファ



【試訳】1928年、アントヴェルペンの世界大会の中でもたれた2つのバハイ教徒の集会を機会に、リディアは初めて公に話をした。このことはエスペランティストたちを十分おどろかすものであった。なぜならそれまでは公に話をするということに決して同意せず、彼女は憶病で引っ越し込み思案な人とみなされていたからでした。ザメンホフの家の他の人々は、リディアがバハイ教に改宗することに何も反対しなかった。しかし、彼らはまた彼女のことを理解してなかった。1929年、ポーランド語のユダヤ人の雑誌に、バハイ教についての記事を公表する事さえしたので、ザメンホフ一家に、またユダヤ人社会にはそれ以上にショックを与えた。当時リディアは

「バハウラと新しい時代」をエスペラントに訳し始めていて、マルサ・ルートはその手助けをしていた。1930年には、リディアはバハイ教徒にとっての聖地であるパレスティナのハイファへ旅をした。そして、当時のバハイ教の指導者、ショギ・エフェンディに会った。

=====

Lidja decidis lerni la Cseh-metodon
por instrui Esperanton eksterlande.

La movado tamen ne plu estis tiel favora
al ĝi kiel antaŭe, ĉar oni ja malĝasis,
ke membro de la Zamenhofa familio
aktivis por la disvastigo de la bahaa
afero, timante ke la publiko ekkredus,
ke Esperantismo estas intime ligita
al iu religia kredo.

decidi 決定する、決心する、Cseh-metodo
チェ・メトード（エスペラントのみ使って、
他の民族語による解説を行わないです、
エスペラント教授法の一つ、チェと言う人
によって始められた。今でも直接教授法の
一つとして続いている。ne plu estis tiel
favora al ĝi kiel antaŭe もはや以前と
同じように好意的というわけではなかった
mal-ĝasis 嫌う、disvastigo 拡大、timante
ke la publiko ekkredus 人々が～と信じ始
めるのではないかとおそれて、ligi つなぐ、

=====

〔試訳〕外国でエスペラントを教えるために、リディアはチェ・メトードを学ぶことに決めた。
エスペラントの運動はしかし彼女にとってもはや以前のように好意的なものではなかった。とい
うのは、ザメンホフ家の者がバハイ教というものの普及のために活動することは、全く好まれな
かったからである。つまり、エスペラントの考えがある宗教の信仰と密接に結びついていると世
間の人々が信じ始めるのではないかとおそれていたからである。

=====

(バベルの塔) ④ 《インドの公用語は16》 インドは多言語の社会であり、百ルピー
紙幣の表にはヒンディー語と英語で、裏にはその他の13の言語で単位が示されている。

(バベルの塔) ⑤ 《海外の日本語学習者、アジア中心に増加》 国際交流基金日本語
国際センターの調査によると、99ヶ国、6800機関、教師数21000人、学習者数1
62万人を越えているとのことである。またラジオ、テレビの講座も含めると日本語の学習
者は数百万人にのぼるものとセンターでは推定している。国別では韓国、中国、オーストラ
リアの順で多い。問題点としては教材不足、設備不足、また日本の文化や社会について的情
報が少ないとなど上げられている。(朝日新聞の記事より)

(バベルの塔) ⑥ 《「共通語と地方語」スペインで論争》 スペインの王立言語アカ
デミー会長の首相あての書簡が波紋を呼んでいる。その書簡には【1978年憲法によって
地方語を公用語とするに至った、カタルーニャ、バスク地方、ガリシアなどの自治州で、國
家の共通語たるスペイン語（カスティーリャ語）の習得が不利な状況におかれているとして
、「これによって『國民的共存が損なわれる』ような事態が起こることのないように」と、
現状への懸念が表明されている】 これにたいし、各自治州の関係者から反発の声があがっ
ている。「いまだにカタルーニャ語はカタルーニャ地方においてさえスペイン語と対等の立
場になっていないという現状の方が問題である」、「王立言語アカデミーの姿勢には、新たなスペイン・ナショナリズムの強まりがうかがわれる」「スペインの多言語、多文化、多民
族という現実を等しく認識することが、共存の出発点である」等々。言語学者や文学者を巻
き込んで、『言語論争』がしばらく続きそうである。1国での「調和ある2言語併用主義」
の実現の難しさを示している。(朝日新聞、海外文化欄より)

(バベルの塔) ⑦ 《世界の言語半分消滅》 アラスカ大学の言語研究グループの報告
によると、先史時代人類は約15000の言語を使っていたが、現在はその数が約6000
に減少している。これから約1世紀の間に、さらに多くの言語が消滅し、2100年に生き
残っている言語は約600になるだろうとのことである。(アトランタ、1995. feb. 18 AP)

ガンをおさえる効果的な食生活

フランスの某紙からレオ・ロペールが エス訳したもの

SANO



KANCERO KAJ NUTRADO: DEMANDO-PUNKTOJ



ANTAÙ NELONGE EN PARIZO KUNVENIS DUCENTO SERĈISTOJ POR ESPLORI
LA KOMPLEKSAJN RILATOJN INTER NUTRADO KAJ KANCERDISVOLVIĜO.

Ĉu saniga nutrado protektas kontraù kancero? Tiu demando konsistigas temon de multnombraj debatoj kaj polemikoj en la sciencista medio. 紙上討論 200 serĉistoj (epidemiologoj, kancerologoj kaj nutrado-fakuloj) antaù 伝染病学者 kelkaj tagoj kunsidis en Parizo por bilanci pri tiu malfacila temo. 整理する？

"Hodiaù estas kelkaj certaĵoj kaj multe da nesciaj, post dek jaroj verŝajne inversiĝos la situacio" deklaris la profesoro Boiron [Buaron]. 逆転する Ĉiel oni ne plu pridubas, ke abunda kaj regula konsumado de fruktoj kaj legomoj malpliigas la riskon pri kanceroj, aparte pri tiuj de la digestaparato (ezofago, kojlo, stomako, rektumo). 消化器官(食道, 結腸, 直腸) Tion konfirmas ĉiuj enketoj plenumitaj de post tridek jaroj ĉe diversaj lokoj sur la planedo.

El kio fontas tiu protektefiko? Oni ne ekzakte scias. Ŝajnas, ke riĉeco je vitaminoj kaj mineralajoj de la fruktoj kaj legomoj en tio ludas rolon, sed nenio hodiaù rajtigas aserti, ke same efikus kroma provizo de vitaminoj kaj mineralajoj sub medikamenta formo. Nuntempe oni disvolvas pristudojn por atingi al pli klara scio. Tiucele la dieton kaj sanstaton de 350 000 volontuloj oni zorge priobservos daŭre dum dek jaroj en sep eŭropaj landoj.

フフク



(daúrigota)

日本語とエスペラントのはざまで

- (6) -

前田 米美

今回思いきって『思う』をとりあげてみます。『思う』はもう多くのエスペラントの先輩の方々が既に解説されていますので、私の縁ごとに勘違いや間違いが出るかも知れませんが、思い切ってやってみます。私自身の入門当時の困惑・混乱についてクダをまくわけです。

まず、『思う』を、「日本語エスペラント辞典」でひいてみます。訳語はびっくりするほど、たくさんあります。

1. 思考 pensi; pripensi; opinii.
 考慮 konsideri だめだろうと『思う』
 意図 intenci しようと思う
 信念 kredi きっと... だと思う
 沈思 mediti 深い思いにふける
 判断 juĝi
 認識 trovi と知る・気付く... ことがわかる
 Mi trovas vian opinion prava. 正しいと思う
 推測 sondi; konjekti 推測して、そう思う
2. 感じる senti さびしく思う
3. 見なす rigardi; konsideri だめだと思う
 preni (vin por A) 君を A だと思った
4. 期待 atendi; 予期して、そう思う
 想像 supozи; Kiel mi supozis(atendis). 思ったとおり
5. 願う deziri; esperi したいと思う
6. あやしむ dubi; suspekti そんな事あるはずがないと思っていた
7. 目算 intenci; voli; projekti; plani
 Mi intencas(volas) vojâgi al Hokkaidō .
8. 回想 rememori; rememori knabecon
 心にえがく imagi; imagi al si la knabecon
9. 愛 ami
 したう sopiri あの人のことを思っている
10. 恐れる timi Mi timas, ĉu morgaŭ pluvos.
 雨でないかと思っている (一部筆者加筆)

私は初め『思う』は pensiだけだ、日本語ひとつに、エスペラントの単語はひとつと単純に思いこんでいました。『思う』に、こんなにたくさんの訳語があるのに、大困惑しました。この中から、自分の『思う』にいちばんぴったりしたものを撰ぶということを納得するまで、ちょっと時間がかかりました。ひとつひとつの訳語を眺めていくと、「あ、これはちがうな」「これは近いけど、少しちがうかな」という具合に少し楽しくなります。例えば、文通相手に自分の本当の気持ちを、正しく伝えるためには、こうした訳語を撰ぶ労を惜しんではいけないことも、わかつてきました。そして、辞書を作った人のご苦労をしみじみ感じました。

日本語『思う』をエス譯するのとは逆に、エスペラントの単語を日本語に訳するのに、日本語のひとことでおさまらないものもたくさんあります。何かぴったりした短い訳語がないものかナヤみます。あれを言い、これ下さい、結局生徒さんを白けさせてしまいます。bela, bele, belo, belasなどは人気がありますが、adekvata と identa のちがいなど、「小辞典」の訳語だけでは、なかなかのみこめません。また ikono (ギリシャ正教の絵画・彫刻・モザイクなどの)聖像、manao <聖>マンナ (イスラエル人が荒野で神から与えられた食物) ; <宗>マナ (魔魂) . . . などについては、ヨーロッパのキリスト文化、fasado <建>ファサード (建物の正面), gable <建>切妻 (ゴチック建築の窓・入口などの上) 切妻型装飾. . . . などは、ヨーロッパ建築史について、よく知っていないと、訳語は短くても、すっきりわかりません。でも、こんな単語を普通のヨーロッパ人は日常語のように使ってくるので、「ちょっと待って」ということになります。ヨーロッパの neologismo のおしつけだと腰を立てて、"koto-batalo" (前号 N-ro 8 5、最終ページ、上のほう参照) しないで、文通でゆっくり説明してもらい、こちらからも、例えば、ひな祭り、おみこし、おじぞうさんなど日本独自のことばは、くわしく説明してあげ、文化的な障害をとり除いて、交流の花を咲かせるのが、生きたエスペラントの使い方だと信じています。

「はざま」の勉強はだんだん私の手に負えなくなってきたとして、これは、クダを巻くネタどころか、実に大切なこととわかつてきました。エスペラントは易しいと、ひとことには言えません。私のクダ巻きが入門者の挫折を乗り越えるのに、何かお役に立てればと思います。これを読んで、どうか一層がんばってほしいと思^ういいます。(期待、希望)

☆ MI AMAS ESPERANTON !

1995年8月 [編集] 前田米美

〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA

Julio, Augusto 1995

VERDA MONTE TO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 87

エスペラントって何?



... 学習しやすい国際共通補助語 ...

奥村林蔵 (83)

世界が地球がほんとに狭くなりました。外国旅行もまるでお隣へ行くように気軽にでき、地球の反対側の出来事も生中継でその場で私達に届きます。結構な時勢です。

ところが世界中の文化が進むに連れて、多くの国、多くの民族が、それぞれ自己の文化伝統を強く自覚し、自國語や自民族語をその文化の担い手として高く評価しだしまして、みな自國語を尊重しはじめました。国立民俗博物館前館長梅棹忠夫さんは、幾つもの民族語に通じていられるが、外国語の来客には通訳同伴を求められ、日本語でしか会話なさらない。ただし地球人として地球上の共通語のエスペラントでなら、どの国の人とも楽しく会話なさること。

このエスペラントという言葉は今から百年ほど前にポーランドの眼科医ザメンホフ博士の提唱した国際共通補助語で、これと自國語とさえ話せれば『世界中は我が家』というものです。

その構造はというと、世界中の小中学生でも台所の主婦にでも易しく習得できるよう工夫されています。

- ①ローマ字読みである。
- ②書いてある通りに読み、読むとおりに書く。
- ③アクセントは常に終りから二番目の母音にある。
- ④名詞・動詞・形容詞などは語尾が決まっている。

等々で大変美しい。でもローマ字が苦手の人には無理か。私は大勢の外国の子どもと文通していますが、彼らはローマ字に慣れているから子どもでも書いてきます。

ただし、電話やファックスと同じで、こちらが知っていても相手が知らねば宝の持ち腐れ。実用してみてその便利さを一度知ったらもう病み付きになります。何国の人何語とも対等に文通し会話が出来るのです。

今年の夏は、フィンランドで世界のエスペラントが集まって、世界大会を開きました。二～三千人の参加者の中から、初めて文通相手と出会い、涙のうちに、手を握りあう光景は美しいものです。



"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakto を読む No. 5

FUKUMOTO Hirotugu

すでに5回目となりましたが、リディアの話はいかがですか。基本的な単語以外はほとんど解説にのせてていますので、初心者でも読んでいけるでしょう。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.5

En 1932 Lidja multe prelegis kaj instruis, foje antau 120 homoj, en Svedujo. Post tio ŝi ricevis inviton de la Esperanto-Klubo de Lyon, Francujo, por tie gvidi rektmetodajn kursojn. Kaj per tio komenciĝis la kariero de Lidja kiel Cseh-instruistino.

(単語の解説)

prelegi 講演する、instrui 教える、foje ある時、Svedujo スエーデン、post tio その後で、ricevi 受け取る、invito 招待、Lyon フランスの町リヨン、gvidi 指導する、rekt-metoda レクタメトードの（直接教授法=最初からエスペラントのみで教える方法）、kurso 講座、講習会、per tio そのことによって、komenc-iĝ-i 始まる、kariero 経歴、履歴、kiel ～としての、Cseh-instruist-in-o チェ式直接教授法で教えるエスペラントの教師

〔試訳〕 1932年にリディアは講演や教育を沢山行った。ある時はスエーデンで、120人の聴衆の前で講演した。その後、フランス、リヨンのエスペラントクラブから、そこで直接教授法の講習会を指導してほしいという招待を受けた。そして、このことからリディアのチェ式直接教授法教師としての経験が始まったのです。

Kvankam la instruado de Esperanto en publikaj lernejoj estis malpermesita en tiama Francujo, la intereso pri Esperanto estis grandega. Lidja instruis al klasoj kun centoj da personoj, la gazetaro favore raportis kaj la lernantoj estis entuziasmaj. Tiuj sukcesoj ripetiĝis en pluraj aliaj francaj regionoj. Poste Lidja vizitis Nederlandon, sed unuafoje ne partoprenis la Universalan Kongreson en 1933, kiu okazis en Kolonjo(Germanujo) sub rego de la nazia influo. Sur fotoj de tiu hontinda kongreso, kies organizon la Esperanta gazetaro aparte laŭdis, oni vidas ĉie la naziajn emblemojn kaj la germanajn esperantistojn levantajn la brakon por "germania saluto".

kvankam ~だけれども、instruado 教育、教授、publika lernejo 公立の学校、malpermesi 禁止する、tiama 当時の、intereso 興味、関心、grand-eg-a とても大きい、instrui al klaso 授業をする、klasoj kun centoj da personoj 数百人の参加しているクラス、gazet-ar-o 諸新聞、favore 好意的に、raporti 報告する、entuziasma 热心な、sukcesoj 成功、ripet-iĝ-i 繰り返される、pluraj 複数の、regiono 地方、poste 後で、viziti 訪問する、Nederlanda オランダ、unuafoje 初めは、parto-pren-i 参加する、okazi 催される、nazi-a influo ナチスの影響、rego 支配、hont-ind-a 恥じるべき、organizo 組織、aparte 特別に、取り立てて、laudi 誉める、賞賛する、vidi 見る、nazia emblemo ナチスの紋章、levi 上げる、brako 腕、手、"germania saluto" 手を上に上げるナチス式敬礼、

【試訳】当時のフランスにおいては、公立の学校でのエスペラント教育は禁止されていたけれども、エスペラントへの関心はとても大きかった。リディアは数百人が参加する講習会で教えた。そして、新聞では好意的に報道され、講習生は熱心であった。この成功はフランスの他のいくつかの地域でも繰り返された。その後リディアはオランダを訪問した。しかし初めは、1933年の世界大会に参加しなかった。この大会はナチスの影響力の支配下にあったケルン（ドイツ）で開催された。エスペラントの雑誌は大会の組織を賞賛した、この恥じるべき大会の写真では、いたるところにナチスの紋章と、ナチス式敬礼として手を挙げたドイツのエスペラントストが見られます。

Lidja daŭrigis sian instruadon en Francujo ĝis somero 1934, kiam ŝi reiris Varsovion post dujara foresto. Ŝi partoprenis la Stokholman UK kaj rekomenesis sian Esperanto-instruadon en Francujo. Lidja estis tiel sukcesa, ke laborante nur por Esperanto, ŝi povis vivteni sin dum pluraj jaroj.

daŭrigi 続ける、instru-ad-o 教育、講習、教授すること、ĝis ~まで、somero 夏、re-iri 戻る、帰ってくる、du-jara 二年間の、for-esto 不在、parto-preni 参加する、Stokholm-a ストックホルムの、re-komenci 再開する、tiel ~, ke それほど~なので、ke以下である、sukcesa 成功である、nur por ~だけのために、labori 働く、viv-ten-i sin 自分の生活を支える、dum pluraj jaroj 数年間、

【試訳】リディアはフランスでエスペラントの教育を続けて、1934年の夏、2年間離れていたワルシャワに戻った。彼女はストックホルムの世界大会に参加してから、フランスでのエスペラント教育を再開した。リディアはエスペラントのためにだけ働くことで、数年間自分の生活を支えることができるほど充分に成功した。

La grandegaj sukcesoj de Lidja fine atingis interesigantajn esperantistajn rondojn en Usono, kiuj invitis ŝin doni Cseh-lecionojn tie. Sed unue Lidja revojaĝis en printempo 1937 al Francujo por novaj kursoj. En aŭgusto ŝi partoprenis la Universalan Kongreson de Vieno, kie prelege ŝi emfazis la gravegan rolon de la patrinoj en la kontraŭ-milita edukado de siaj gefiloj. De Vieno ŝi revojaĝis al Varsovio, kie la situacio por judoj pli kaj pli akrigis.

grand-eg-a 非常に大きい、偉大な、fine 遂に、終わりに、atingi 達する、到着する、interes-iĝ-ant-a 関心のある、rondo ロンド、集まり、グループ、inviti 招待する、doni 与える、Cseh-leciono チェ式教授法の講義、re-vojaĝi もう一度旅をした、printempo 春、aŭgusto 八月、Vieno ウィーン、preleg-e 講義で、emfazi 強調した、grav-eg-a とても重要な、rolo 役割、patr-in-o 母親、kontraŭ-milita 反戦の、eduk-ad-o 教育、ge-filo 息子と娘、situacio 状態、状況、judo ユダヤ人、pli kaj pli だんだんと、akr-iĝ-i 厳しくなる、

〔試訳〕リディアのおさめた大きな成功は、遂にアメリカ合衆国の関心を持っているエスペランチストのグループにも聞こえ、彼らはチェ教授法の講義をしてもらうためにリディアを招待した。しかし、1937年の春に最初は新しいクラスのためにフランスをもう一度訪れた。8月には、彼女はウィーンの世界大会に参加し、自分の子供たちにたいする反戦教育で、母親が非常に大きな役割を果たすのであると強調する講義をした。ウィーンからはワルシャワに戻ってきたが、そこではユダヤ人にとっての状況はだんだんと厳しいものになっていた。



SANO

ガンをおさえる効果的な食生活

フランスの某紙からレオ・ロペールが
エス訳したもの [つづき]

KANCERO KAJ NUTRADO: DEMANDO-PUNKTOJ

ANTAÙ NELONGE EN PARIZO KUNVENIS DUCENT SERĈISTOJ POR ESPLORI
LA KOMPLEKSAJN RILATOJN INTER NUTRADO KAJ KANCER-DISVOLVIĜO.

Dume, kaj konsidere al la nuntempaj scioj, la fakuloj tamen akordiĝas
por elmeti tri esencajn rekomendojn, rememorigataj de la profesoro Elio
RIBOLI: Eviti obzecon, modere trinki kaj ofte konsumi fruktojn kaj legomojn.

obzecon?
(太りません)

NOTU TION ĈI

FRUKTOJ KAJ LEGOMOJ ESTAS BONVENAJ

-Ne necesas rezigni pri la kutimaj manĝoj. Nur sufiĉas pliabundigi
kaj reguligi la konsumadon de vegetajoj. Diet-šanĝo nepre okazu iom post
iom per enigo de fruktoj kaj legomoj ĉe ĉiun manĝon, aŭ per ioma pliamplek-
sigo de la kvantoj.

-Prefere al fritajoj, oni kuiru la legomojn en vaporo, stufite, envolvite,
aŭ en akvo.

-Dum matenmanĝo manĝu frukton aŭ trinku frešan fruktosukon. Manĝetu
frukton aŭ legomon, kiam malsateto incitas vin.

-Sandviĉo ! Aldonu salaton, tomaton, kukumeton ...

-Aĉetu legomojn kaj fruktojn dum la matur-sezono. Ili estas pli bongustaj kaj riĉenhavaj.

-Eksci, ke la verdaj eksteraj legom-folioj entenas pli da vitaminoj ol la internaj blankaj.

-Ankaŭ la kompletaj cerealoj : pano, pastaĵoj, rizo, semolo, kaj la sekaj legomoj, pizoj, lentoj, faboj, blankaj kaj ruĝaj fazeoloj, ktp ...estas riĉaj fibro-fontoj. Pri tio pensu pli ofte!

P.S. -Tiu artikolo, verkita de Michèle DURCY, aperis la 6an de decembro 1994 en la regiona jurnal SUD-OUEST. Ĝin elfrancigis L.Robert, kun permeso de la aŭtoro kaj de la jurnal-redakcio.

80-a UNIVERSALA KONGRESO en Tampere (Finlando)
S-ino UENAKA partoprenis.



大会会場にて 札幌 ヌベラティストと共に (中央が上中さん)

[エスペラントの旗]

かっこいい寸法

奥 村 林 蔵

私はソウルのエスペラント世界大会には行かなかった。

行った人から聞いた話に、

『大韓星旗が新調されていて、その寸法が今までのと違っていた。』
とのこと。

最近いただいた『Domoto Jubileas』の写真でそれがよく解った。
白地の部分が正方形でなくて横長である。私はこれに賛成です。
むかし緑星旗の寸法が問題になったとき、UEAは

横 : 縦 : 白地の辺 = 3 : 2 : 1

星の外接円の直径 : 白地の辺 = 7 : 10

星の外接円の中心 = 白地の正方形の中心

でどうでしょうか、それでいいでしょうとした。

私はそのとき、早速異議をとなえて、

白地は少し横長の、黄金分割比に

星の高さの中点が 白地の中心に

と書き送ったが、そんまま立ち消え。

まあ、UEAの案も解りやすいので、あと、抗議しないでいる。

(『日の丸』の中心は、横の100分の1だけ、旗竿の方によせる。
という規定をご存知か。これでかえって見た目に中心にある。)

ソウル大会の写真を見て、私と同じ審美眼の持ち主のあるのを知って
満足した。(生野高校のエスペラント部の旗は私の考え方通りに作った。)

1995年10月 [編集] 前田米美 〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA September, October 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 88

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakt o を読む No. 6

FUKUMOTO Hirotugu

残りを2回に分けて読んでいきます。単語の解説が多すぎるようにも思いますが、これだけ書けば誰でも読めるでしょう。

<<< Lidja >>>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.6

En Septembro 1937 Lidja en ŝipigis por Usono, kie oni atendis ŝin kun miksitaj sentoj, ĉar disvastiĝis la onidiro, ke ŝi estas mizera preleganto. Krom tio, esperantistoj kaj bahaanoj devis kunlabore organizi ŝian vojaĝon kaj restadon. Ambaŭ grupoj estis jaluzaj pri Lidja, kaj la esperantistoj ne fidis la bahaanojn, kiuj ja parolis

(単語の解説)

en-ŝip-iĝ-i 乗船する、船に乗る、 por Usono アメリカ合衆国行きの、 atendi 待っている、期待する、 miksi 混ぜる、混合する、 sento 感情、気持、 kun miksitaj sentoj 入り交じった気持で、 dis-vast-iĝ-i 広がる、 onidiro うわさ、風聞、 mizera みじめな、悲惨な、 preleg-anto 講演者、 mizera preleganto 講演するのが大変下手な人、 kun-labore 共同して、 organizi 段取りをする、 rest-ad-o 滞在、 ambaŭ 両方の、 jaluzi 嫉妬深い、 fidi 信頼する、 neceso 必要性、 universala lingvo 世界

pri la neceso de universala lingvo sed
apenaŭ interesiĝis pri Esperanto. Tio
sanĝiĝis, kiam Lidja eklaboris en
Usono, sed la sukcesoj ne estis tiel
triumfaj kiel en Francujo. Por Lidja
Usono estis tre fremda, surpriza
mondo; ŝi ne bonfartis kaj estis mal-
feliĉa tie.

語、apenaŭ ほとんど～ない、interes-i-g-i pri ～に関心がある、興味がある、
sanĝi-g-i 変わる、変化する、ek-labor-i
活動を始める、sukceso 成功、ne tiel ～
kiel ～～ ～～ほど～ではない、por ～
～にとて、fremda 見知らぬ、見慣れない、
surpriza 思いがけぬ、驚くような、
mondo 世界、bon-fart-i 健康に暮らす、
元気である、mal-feliĉa 不幸な、

〔試訳〕 1937年の9月にリディアはアメリカ合衆国行きの船に乗った。そこでは人々は入り交じった気持ちで彼女のことを待ち受けていた。というのはリディアがとても講演が下手であるといううわさが広がっていたからである。そのほかに、エスペランチストとバハイ教徒は共同で彼女の旅行と宿泊の段取りをしなければなりませんでした。両方のグループはリディアについて嫉妬心を感じていて、そして世界語の必要性については語るのに、エスペラントにはちっとも関心がないバハイ教徒達に対しエスペランチスト達は不信感を持っていました。それらのことはリディアがアメリカ合衆国で活動し始めると変化しましたが、フランスにおいてほどには充分な成功ではありませんでした。リディアにとってアメリカ合衆国は非常に見知らぬ、思いがけない世界であって、彼女はそこではあまり元気でなく、また幸福ではなかったのでした。

En 1938 la politika situacio fariĝis
pli kaj pli kriza kaj la pola registaro
dekretis, ke polaj ŝtatanoj, kiuj ne
revenos hejmen, perdos sian ŝtatan-
econ. Samtempe la restad-permeso

politika situacio 政治的状況、far-i-g-i
～になる、pli kaj pli ますます、kriza
危機的な、pola reg-ist-ar-o ポーランド
政府、dekreti 命令する、ŝtat-an-o 国民
、re-ven-i hejm-e-n 家に帰る、perdi 失
う、ŝtat-an-ec-o 国籍、sam-temp-e 同時

« de Lidja malvalidigis kaj montrigis, ke pro nescio, ĝi malobeis usonan legon, kiu malpermesas perlabori monon, eĉ se malmulte, dum la restado. Ĉial Lidja forlasis Usonon fine de novembro 1938.

に、restad-permeso 滞在許可、mal-validig-i 無効になる、montr-i-g-i 現れる → 分かった、pro ne-scio 知らないで、mal-obe-i 命令にそむく、lego 法律、mal-permesi 禁止する、per-labori monon 金を稼ぐ、eĉ se たとえ～でも、restad-o 滞在、ĉial あらゆる理由で、for-

lasi 去る、後にする、fine de novembro 11月の終わりに、

【試訳】1938年には政治的状況はますます危機的なものとなっていた。そしてポーランド政府は、家に帰らないポーランド国民はその国籍を失うと命令を出した。同時にリティアの滞在許可が無効になっていた。そして知らないことはいえ、たとえわずかでも滞在中にお金を稼ぐことを禁止しているアメリカ合衆国の法律に違反していたことが分かつてきただ。それらのことによりティアは1938年の11月の終わりにアメリカ合衆国を去ることになった。

Reveninte hejmen ŝi sin dediĉis denove al tradukado kaj verkado. Interalie ŝi tradukis Bahá'u'lláh kaj la nova epoko en la polan lingvon. Tiutempe ekzistis precize tri bahaanoj en Pollando, kaj ĉar ili apartenis al tri malsamaj naciecoj, ili interkomunikigis nur en esperanto.

dediĉi sin ~ ～に身を捧げる、～に打ち込む、traduk-ad-o 翻訳活動、verk-ad-o 著述活動、inter-alie とりわけ、epoko 時代、lingvo 言葉、tiu-tempe 当時、ekzisti 存在する、precize 正確には、aparteni 所属する、mal-sama 異なった、naci-ec-o 民族、国民、inter-komunik-i-g-i 相互に連絡する、お互いに意志疎通をはかる、nur en esperanto エスペラントだけで、

【試訳】家に帰ってから、リディアは再び翻訳と著述に打ち込んだ。特に彼女は「バハウラと新しい時代」をとりあげて、ポーランド語に翻訳した。その当時ポーランドに、正確には3人のバハイ教徒があり、そして彼らは3つの異なる民族に属していたので、エスペラントだけで連絡しあっていた。

【バベルの塔】　【ヨーロッパの言語事情】　我々はフランスではフランス語、ドイツではドイツ語、スペインではスペイン語が話されていると思っているのだけれど、実際はそうではない。フランスでもカタロニア語、バスク語、ブルトン語、アルザスのドイツ語（アルザス語）、プロヴァンス語等が話されており、またフランスの南半分ではオックス語（オクシタン語）が話されている。

フランスでは、大革命の時に「人口2300万人のうち、600万人はフランス語を全く理解せず、他の600万人はフランス語をうまく話せない」状況であった。（「国家語を越えて」田中克彦P102）

フランスでは1951年のデクソンヌ法施行以来、フランス語以外の言語が地域語として認定されており、地域語重視はさらに強まる傾向にある。オクシタン語の地域には熱烈な地域主義者の作家が生まれている。南仏の中心都市の一つモンペリエに住む作家のマックス・ルケットさんはもっぱらオクシタン語で書いており、アメリカ、ドイツでも翻訳されて紹介されているが、フランスではほとんど知られていない。（朝日新聞、海外文化欄より）

ベルギーでの言語問題の重大さは有名であるが、言語と国家の領域は異なったものとなることから、問題は益々複雑になってくる。また言語の違いは民族の違い、宗教の違い、習慣・伝統・考え方の違いをも含んでいることから、言語問題は民族主義とからまっていく。

旧ユーゴスラビアの崩壊の悲劇は今も続いている、国際社会のこの紛争に対して無力のように見える。このような悲劇はこれ以上増やしてはいけない。　（福本）

和歌山県立図書館での国際語関係図書一覧表

今回、図書館でエスペラント関連図書がどのくらいあるのか調査をしてみました。

県立図書館では下記のとおりでした。辞書類は4冊とも参考書として閲覧室にありますが、借り出しができません。図書館を訪れる人の目につく学習書は1冊のみ（エクスプレスエスペラント語）であり、他の本は書庫に保存されている。請求すれば借り出すことができるが、普通の人はそこまでしないだろう。発行年の新しい学習書を寄贈する必要がありそうです。

その他の関連書では伝記のところにマジョリー・ボルトンの「エスペラントの創始者、ザメンホフ」が、言語のエスペラントのところに「新エスペラント国周遊記」、「地球時代のことばエスペラント」、「エスペラント体験」が見られるだけである。これは市民図書館と比べても少ないので、もう少し増やしたい。その他の本は比較的古いものが多く、書庫に保存されている。

(平成7年8月 福本博次)

学習書 11冊 (閉架10冊、閲覧室1冊—G11のみ)

- G 1 新エスペラント講座 第1巻 入門編、要文社、大島義夫、(1981)
- G 2 新エスペラント講座 第2巻 基礎編 要文社 大島義夫、(1981)
- G 3 新エスペラント講座 第3巻 研究編 要文社 大島義夫、(1981)
- G 4 基礎エスペラント、大学書林、川崎直一、(1979)
- G 5 エスペラント四週間、大学書林、大島義夫、(1977)
- G 6 改訂エスペラント捷徑、日本エスペラント学会、小坂けん二、(1973)
- G 7 エスペラント第一步、白水社、城戸崎益敏、(1952)
- G 8 エスペラント翻訳のこつ、日本エスペラント学会、山川修一、(1978)
- G 9 エスペラント学力検定試験問題集、日本エスペラント学会、(1978)
- G10 エスペラント作文教室、日本エスペラント学会、梶弘和、(1979)
- G11 エクスプレスエスペラント語、白水社、安達信明、(1992)



その他の関連図書（国際語の解説書、ザメンホフの伝記、旅行記等）

18冊（閉架11冊、閲覧室5冊—A6,A13-A16のみ、その他2冊）

- A1 国際語の歴史と思想、毎日新聞社、二木紘三、(1981)
- A2 国際語概説、白水社、ピエール・ピュルネー、和田祐一訳、(1964)
- A3 エスペラントの話、大学書林、三宅史平、(1976)
- A4 反体制エスペラント運動史、三省堂、大島義夫・宮本正男、(1974)
- A5 サルートン（エスペラントでこんにちわ）、星雲社、横浜エスペラント会、(1985)
- A6 エスペラント体験、日本エスペラント図書刊行会、梅棹忠夫、(1994)（2冊）
- A7 ザメンホフ（エスペラントの父）、岩波書店、伊藤三郎、(1950)
- A8 ザメンホフ 9-1（ザメンホフ原作全集完成記念仮想講演会）、
永末書店、いとうかんじ、(1983)
- A9 ザメンホフ 9-2（PVZ普及のためのCM小説：
伝説ぬきのザメンホフ）、永末書店、いとうかんじ、(1983)
- A10 エスペラント国周遊記、朝日新聞社、出口京太郎、(1965)
- A11 世界をひとつの言葉で（ザメンホフ伝）、国土社、朝比賀昇、(1982)
- A12 中国の緑の星（長谷川テル 反戦の生涯）、朝日新聞社、高杉一郎、(1980)
- A13 エスペラントの創始者 ザメンホフ、新泉社、マジヨリ・ボルトン著、水野義明訳、(1993)
- A14 新「エスペラント国」周遊記 中南米編、新泉社、水野義明、(1991)
- A15 地球時代のことばエスペラント、エスペラント図書刊行会、土居智江子、(1991)
- A16 20世紀とは何だったのか、朝日新聞社、なだいなだ・小林司、(1992)
(以下、紀南分館、移動文庫であり和歌山市では見られない——2冊)
- A17 危険な言語、岩波書店、カリッヒ・リス、栗栖繼訳、(1975)（紀南分館）
- A18 嵐の中のささやき（炎の青春）、新評論、長谷川テル、高杉一郎訳、(1980)、
(紀南分館1冊、移動文庫1冊)

辞書類 4冊 (参考書として閲覧室で利用は可能、貸出不可)

- V 1 エスペラント基礎 1500語、大学書林、三宅史平、(1975)
- V 2 日本語エスペラント辞典(普及版)、日本エスペラント学会、宮本正男、(1983)
- V 3 エスペラント小辞典、大学書林、三宅史平、(1976)
- V 4 新選エス和辞典、日本エスペラント学会、岡本好次原著、貫名美隆・宮本正男共編、(1979)

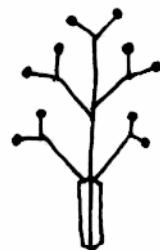
(その他の人工語について 2冊)

- A19 新しい世界語ポアーボム、民生館、岡本普意識、(1960)
- A20 世界語学論、民生館、岡本普意識、(1964)

検索して見つかるものは次のとおりである。

検索方法 1

始め → 一般書 → 分類 → 言語 → その他の諸言語
→ 國際語 [人口語] ・ エスペラント 30冊
V 1 ~ V 4、G 1 ~ G 11、A 1 ~ A 9、A 14 ~ A 15、A 17 ~ A 20



検索方法 2

テーマによる 始め → 一般書 → 分野・
→ (エスペラント) → 小分類 <エスペラント> 20冊 V 1、G 1 ~ G 6、G 11、
A 3 ~ A 7、A 10、A 12 ~ A 15、A 17、A 18 <エスペラント作文> 1冊 G 10のみ
<エスペラントー辞書> 1冊 V 2のみ <エスペラントー辞典> 2冊 V 3、V 4
→ (国際語) → 2冊 A 1、A 20
→ (人工語) → 見つからず

核実験について

TIEL OPINIAS
IU FRANCO

あるフランス人の意見

Léo ROBERT

Eble vi atendas, ke mi traktu pri la decido de nia respublikprezidento denove okazigi nukleajn proveksplodojn. Memkompreneble mi ne volas, nek povas, silenti pri tia decido, kiun mi opinias abomeninda kaj tute ne pravigebla laú homeca vidpunkto; mi hontas esti civitano en lando, kiu laú mi senhonorigas alpreninte tian kontraú-civilizacian decidon. Mi jam plurfoje subskribis peticion por protesti kontraú tio, partoprenis en surstrataj protestokunvenoj; tamen sciante, ke ni, simplaj individuoj, havas nur etan influon. Mi atente aúdas pri reagoj de la eksterlandaj registaroj, kaj centprocente akordigas kun agado de Greenpeace kaj aliaj pacistoj. Naúzas min la nuntempa propagando sur ondoj de televido kaj radio, kiuj servuteme dissendas la oficialajn argumentojn, evidente subtenaj, kaj tute silentas pri la kontraúaj agoj, manifestacioj, deklaroj, k.a., kiuj okazas ne nur eksterlande sed ankaú multloke enlande. Naúzas min la insistomartele enkapigi la ideon, ke tiaj eksplodoprovoj necesas por atingi al plua serĉado cele al miniaturigo de la bomboj; ankaú por certigi sekurecon de nia lando - sekureco per teroro! ; ankaú por pli trafe ebligi definitivan forlason de la nukleaj armiloj (tia argumento atingas kulminon en hipokriteco!); ankaú por paco pli firme certigi en la mondo. Jes ja, ĉion mi aúdis!...

お待ちかね、フランス大統領がまた核実験を三昧に話題にうつります。勿論私はそんな決定を望みませんし、黙つていいわけにはまいりません。これはあざけいことであり、人道的な観点からしても、全く正当化できません。そんな反市民的な決定をして名誉を失墜した國の、国民であることを私は恥ずかしく思います。私も何回か反対請願書に署名したし、街頭反対集会にも参加しました。しかし私たちは単なる個人であってその影響力は知れぬものです。外国政府の反応も注意して聞いています。クリンペースやその他の中立主義者の活動には100パーセント共感をもっています。今のテレビ、ラジオの放送には納得できません。おしつけがましく公式論を放送し、明らかにそれを支持しています。そして反対の動きやデモや宣言などは完全に黙殺です。反対の動きは、国外のみか、国内でもあちこちで走っています。この核実験は、爆弾をミニチュア化する研究には需要だという思想をハンマーで叩きこみついにくりかえすのもなきないこと。これはまたフランス国家の安全の確保——テロによる安全確保!——であり、核兵器の廃絶をより有効にするという(この論法は偽善の最たるもの!)そして世界平和を確立するという。ハイハイすっかり聞きました。(小意えとさますばー!)

Aparte fortaj estas reagoj en Aŭstralio kaj Nov-Zelando; sed laŭ niaj informiloj multe malpli forte reagis Japanio. Ĉu vere?... En via lando ankoraŭ freše restas en memoro la detruoj en Hiroshima kaj Nagasaki, kaj oni proprasperte ĝuste scias, kian teruran dangeron nukleaj armiloj prezentas kontraŭ homaro. Ankoraŭ nun klare revenas antaŭ miaj okuloj la apokaliipsaj bildo, kiujn mi iam malkovris vizitante la memormuzeon en Hiroshima. Kaj de tiam "progresoj" ebligis produkti mortigilojn ankoraŭ pli trafe efikajn!...

Por alpreni sian decidon nia respublik-prezidento, Jacques Chirac, laudire sekvis konkludojn de komisiono el fakuloj. Sed kiaj fakuloj?... Scientistoj, generaloj, armilfabrikantoj, dekstrulaj politikistoj... Inter tiuj, neniu reprezentanto de la pacistaj asocioj, tamen jam delonge ekzistantaj kaj aktivaj en nia lando. Li tute ne aludis pri eventuala konsulto de la popolo per referendumo pri tiu aparte grava problemo, kion verdire ebligas nia konstitucio, sed bedaŭrinde ne devige. Pri tiu temo okazis sond-enketoj jam de pluraj jaroj; eble iom "genaj" tial, ĉar ili konstante montras, ke firma plimulto el la landa enloĝantaro certe pretas voĉdoni malfavole al nukleaj eksplodoprovoj. Ĉu vera respubliko estas regimo, en kiu la prezidento tenas ekscesan privilegion tiel disponi pri vivo de la tutu popolo, sola decidi pri eĉ militdeklaro? Li rajtas konsulti eĉ ne la parlamentanojn, laulegajn reprezentantojn de la popolo, kaj tiuokaze li uzis tiun rajton. Satira jurnalo moke skribis, ke en Francio politika regimo estas tiu de "respublika reĝeco"; grandparte prave, kvankam tra la mondo ĝi ĝuas famon, kiel vera demokrata regimo. Sed kio ĝuste estas demokratio?...

(Ekstraktita el lia letero de 29 aŭgusto. 1995) (1995年8月29日の彼の手紙から抜き)

オーストラリアとニュージランドは特に強く反対していますが、フランス国内の情報では、日本の反対はずっと弱いそうで、ほんとうですか?... 日本ではヒロシマ、ナガサキの爆爆の記憶はまだ新しいし、核兵器の人類に対してどんなに恐ろしい危険をもたらすか! 独自の体験でよくご存知です。あのヒロシマの資料博物館を訪問して、はじめて見た黙示録(人知をもって知り得ないことを神が愛をもって、あおいととり去ってあらわし示す文字)的な光景は、今も私の眼にほっきりやまついています。そして、それ以後も、この殺人兵器をもっと有効なものにして生産しようという「進歩」が行われているのです!...

フランス大統領ジエック・シラクは、その決定を採用する時、聞くところによれば専門家で構成された委員会の結論に従ったといわれます。しかしどんな専門家ですか?... 科学者、将軍、兵器製造業者、右翼政治家... この中には平和運動団体の代表者はいません。そんな国体はフランスにはもうずっと前からあって活動していたのに。大統領は、国民投票によって、その当時の国民の意見を聞くことに全然ふれませんでした。特に重要な問題については、フランス憲法によって国民投票はできます。但し残念ながら義務化されてしまいませぬ。このテーマについて数年前、世論調査も行われました。これら世論調査は、核実験にむし、国民の動かめ大部分が確実に反対票を投じるから、ちょっと都合めわざいのでしょう。眞の共和国とは、その大統領が、勝手に国民の生活を左右し、ひとりで宣戦布告をしめるような持株をもった政体なのでありますか? 大統領は、法的な国民の代表者である国会議員の助言さえ拒否する裁判があつて、今回その権利を行使したのでした。風刺新聞はそれをあざけて、フランスの政体は「共和的王国だ」と。大体その通り、世界でも有名な民主政体だといわれているのに。民主政体とはほんとうは何なのでしょう?

世界共通語

エスペラント(初級)通信講座

エスペラントは 世界百数十か国 約百万人によって実用されています。
民族語は それぞれの民族の美しい作品です。 エスペラントは民族語にと
って代わるのでなく、異なる母語を話す人々をつなぐ架け橋のことばです。

この世界共通語で、世界のさまざまな市民と、趣味の交換などの いろんな
問題についての意見交換、文通、観光対話旅行などで交流を深めてみませんか。
あなたの視野が広がり、より人生を楽しく味わえることでしょう。

毎年世界各地で 世界大会が開かれ、初心者でもエスペランチストなら 個
人の資格で参加できます。 この初級講座で充分です。 観光をかねて一緒に
に行きませんか。

☆ 申し込み先

〒 640 和歌山市 直川 2506-2 江川治邦

TEL. 0734-61-2234 (詳しい説明書を送ります。)

☆ 受講要領

(受講料) テキスト代と通信費のみで
2000円 (80円切手25枚でも結構です。)

(講習期間) 約6か月 (開始・終了は、通信講座のため、個人の
自由です。)

受講ご希望の方は、ハガキに、住所・氏名・電話番号を書いて
お申し込み下さい。

WAKAYAMA Novembro, Decembro 1995

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (*dumonata*) N-ro 89

"Lidja" (ザメンホフの末娘) Heinz Dieter Maas, Germanio

TEJO の機関誌 Kontakt o を読む No. 7

FUKUMOTO Hirotugu

リディアの悲劇的な死を含め、ザメンホフの家族達の運命は悲劇的であった。（最終回）

<< Lidja >>

Heinz Dieter Maas, Germanio

No.7

En septembro 1939 eksplodis la milito kaj Lidja havis la saman sorton kiel ĉiu polaj judoj. Si devis vivi en la varsovia getto, kie ŝi donis lecionojn pri la angla lingvo por vivteni sin. La esperantistoj, kiuj ne forgesis Lidjan, sendadis pakojn al ŝi. Germana soldato, mem esperantisto, klopojis helpi Lidjan ebligante fuĝon, sed ŝi rifuzis.

(単語の解説)

septembro 九月、 eksplodi (火山など)
爆発する、 (戦争など) 突発する、 milito
戦争、 sama 同じ、 sorto 運命、 kiel ~
のように、 polaj judoj ポーランドのユ
ダヤ人、 devi しなければならない、 義務
がある、 vivi 生活する、 varsovia getto
ワルシャワのゲットー (ユダヤ人街)、
leciono 授業、 課業、 la angla lingvo 英
語、 viv-ten-i sin 生計を立てる、 for
gesi 忘れる、 sendi 送る、 pako 荷物、
soldato 兵士、 klopoji いろいろ骨をおる
、 ebl ig ant e 可能にしながら、 fuĝo 逃
亡、 rifuzi 拒否する、

〔試訳〕 1939年の9月に戦争が勃発し、リディアも他の全てのポーランドのユダヤ人と同じ運命であった。彼女はワルシャワのゲットーで暮らさなければならなかつた。そこでリディアは生活のために英語の講習を行つた。リディアのことを忘れていないエスペランチストたちは、彼女に荷物を送り続けた。彼自身エスペランチストであったドイツの兵士は、リディアの逃走を可能にして助けようとしたが、彼女はそれを拒否した。

En 1942 nazioj komencis grandskalan ekstermadon de judoj en Varsovio, kaj en aprilo 1943 la varsovia getto estis definitive "likvidita". Supozeble tiam ankaŭ Lidja estis deportita al la koncentrejo Treblinka kaj tie mortigita, kiel pli ol miliono da samsortanoj.

(単語の解説)

nazia ナチスの、komenci 始める、grand-skala 大規模な、eksterm-ad-o 皆殺し、aprilo 4月、definitive 決定的に、最終的に、likvid-i 精算する、片をつける、supoz-eble おそらくは、ankaŭ もまた、deport-it-a 追放された、koncentr-ej-o 収容所、mort-ig-it-a 殺された、miliono 百万、sam-sort-an-o 同じ運命の人、

〔試訳〕 1942年にナチスがワルシャワのユダヤ人の大規模な皆殺しを開始した。そして、1943年の4月にはワルシャワゲットーは決定的に消滅させられてしまった。その時リディアもまたトレブリンク収容所に連れて行かれ、100万人を越える他の同じ運命の人々と同様、そこで殺されてしまったと想像される。

Lidja luktis por la unueco de la homaro, la interfratigo de la homoj kaj la emancipigo de la virinoj. Ĉio ĉi radikis

lukti 格闘する、戦う、unu-ec-o 統一、hom-ar-o 人類、inter-frat-i-g-o お互いに兄弟になる、友好、emancip-i-g-o 解放
Ĉio ĉi これら全てのこと、radik-i 根付

en la homaranismo proklamita de sia patro kaj en la instruoj de la baha kredo. Si apartenas al la granda armeo de pacaj batalantoj, kiuj forferis sian vivon en la lukto por pli luma estonteco. Lidja Zamenhof, kar memora al esperantistoj kaj bahaanoj, restos neforgesita.

hom-ar-an-ism-o 人類人主義、 proklam-it-a 公表された、 instruo 教え、 baha kredo バハイ教の、 aparteni 属する、 armeo 軍隊、 隊列、 paca batal-ant-o 平和の戦士、 for-fer-i 挿げ尽くす、 pli luma より明るい、 est-ont-ec-o 未来、 kar-memor a 懐かしい、 baha-an-o バハイ教徒、 ne-forges-it-a 忘れられない、

〔試訳〕リディアは人類の統一、人々の友好、女性の解放のために戦った。これら全てのこととは彼女の父親が宣言した人類人主義と、バハイ教の教えに根ざしていた。彼女はより明るい未来のための闘争に自分の命を挿げた平和の戦士達の隊列に属している。リディア・ザメンホフはエスペランチスト達や、バハイ教徒にとって懐かしく、忘れられない人として心に残るでしょう。

(Kalman Kalocsaj, 1931)

〔試訳〕（カロマン・カロチャイの詩、1931）

Lidja Zamenhof, kor' fervora
Vartante patran sent-heredon,
Jen, serĉas sorĉan sav-rimedon
Por mond' amara kaj dolora.

リディア・ザメンホフは熱心に
父の気持ちを受け継ぎ育て
厳しく苦しい世界のために
魔法の解決策を捜す

Kaj kun entuziasmo kora
Servadas la Bahaan kredon,
Lidja Zamenhof, kor' fervora
Vartante patran sent-heredon.

リディア・ザメンホフは熱心に
父の気持ちを受け継ぎ育て
熱烈な心でもって
バハイ教の信仰に服す

<i>Ei sent' profunda, pens' valora</i>	リディア・ザメンホフは熱心に
<i>En sino havas riĉan bedon.</i>	深い気持ちと貴重な思索で
<i>Ei ili plektas flor-bukedon:</i>	胸の奥の豊かな苗床に
<i>Novelojn kun enhav' trezora,</i>	花束を編み出し、そして
<i>Lidja Zamenhof, kor' fervora.</i>	宝物に満ちた物語を編む

=====

koro 心、気持ち、心臓、fervora 熱意のある、熱心な、varli 育てる、保育する、patra 父親の、sent 感じ、heredo 相続、jen ほらここにある、serĉi 捜す、sorĉa 魔法の、sav-rimedo 救いの方法、mondo 世界、amara 苦い、厳しい、dolora 苦しい、痛い、entuziasmo 热烈、kora 心からの、servi 仕える、尽くす、profunda 深い、valora 値値のある、en sino 胸に、体内に、bedo 苗床、花壇、plekti 編む、よりあわせる、bukedo 花束、novelo (中編) 小説、enhavo 内容、trezora 宝の、

(L i d j a Z a m e n h o f 終わり)

=====

<バベルの塔> 【日本語と大阪語??】

江戸時代には諸国から江戸に出てきた人々はどんな言葉で話し合ったのだろうか。今でこそテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の普及で共通日本語といえるものが出来ているが、当時はそんなものは無かったのではないか。

20年以上前に東京に研修に行ったことがあるが、その時東北の県から来ていた人の東北弁はわかりにくくて、耳に慣れていないくて理解するのが難しかった。高校の時、修学旅

旅行で九州へ行った時、運転手同士の話が分からなかった。

もしも歴史にないのだけれど、もしも日本で各地方が独立の国家を形成していたとしたら、沖縄語、アイヌ語は別としても、大阪語、名古屋語、東北語などができるんだろうか。国家を背負った言語となっていたら、各々の言葉は語彙や言い回しに独自性を出して、ヨーロッパのロマンス諸語以上に違った言葉になっていたのかもしれない。(福本)

BRITIO

Policanoj kun problemoj

Nenio homa estas perfekta, sed la brita polico estas, verŝajne, inter la pli bonaj policoj; kutime sekvas regulojn, respondas al alvokoj de ordinara civitanoj, penas ne nur kapti krimulojn, sed diversmaniere helpi nin ceterajn kaj, grave, preventi krimojn kaj akcidentojn. Mi mem, kiam mi aĉetis mian hejmon, ricevis, tute senpage, valorajn konsilojn pri dom-sekureco de la loka Oficiro Krim-preventa, eĉ skribitan raporton. Mi memoras amikinon el fora lando, kiu unue tre timis, poste miris, kiam surstrate mi iris al policano por peti informon, kaj li ĝentile informis...

Sed, kelkfoje...

Nu, pri aresto de krimuloj: policanoj en suda Anglio ricevis avertion,

ke iu danĝera ulo, kun pafile, sidas en aŭtomobilo, kaj gvatas. Tuja respondeo. Rapidaj aŭtoj. Sireno. Radioaparatoj. Kuraĝa preteco. Kaj jen, temis pri hom-granda kartona silueto, ia reklamilo por filmo...

Pri savo de civitano en danĝero: policanoj rimarkis belan virinon, lukse vestitan (ora robo kun multaj kvasto), brile verdaj ŝtrumpoj!), kiu flosis sur parka lago en Brighton – jes, Brajtono, urbo de la 74a universala kongreso – certe drononta! Bravaj policanoj senhezite pretiĝis por savi ŝin, eble ĵus enfalintan post tutnokta festo kun iom da kemiaj gajigiloj ... sed ŝi klarigis kohere ke ŝi kuſas komforte sur giganta plasta folio akvolilia, ĉiu merkredan matenon dum duonhoro. Kial? En ia artfestivalo ŝi ludas la rolon de vizitanta marvirino...

Kaj kiam temas pri prevento: bonaj civitanoj ne hezitu averti la policon, se io ŝajnas suspektiga; iuj policanoj ja deĵoras tra la nokto. Do, en mez-anglia urbo Market Drayton, preventemaj civitanoj telefonis la policion, ĉar silentaj, sinkaſtantaj figuroj ŝteliris de ĝardeno al ĝardeno, proksimiĝis al ĉefpordo. Kun kia fia intenco?

Fakte, temis pri kelkaj nokte dejorantaj policanoj, kiuj kaptis la okazon, dum siaj rutinaj rondiroj, kviete ŝovi tra pordotruojn demandarojn pri krim-preventado! Marjorie BOULTON



Grava dilemo: ĉu policisto rajtas demeti sian kaskon por la bono de l' homaro?

"Faktoj kaj Fantazioj" の マジック
11-12月号に
まだまだお元気で
MONATO誌 10月号に、上のようない
記事をのせていましたのでご紹介。

(前田の拙訳はP. 8)

エスペラントでの出会い（1995年）

FUKUMOTO Hirotsugu

10月の22日成田発、11月3日帰国、13日間の日程で組まれたヨーロッパ5カ国の海外地方行政関係視察団に参加して、初めての欧洲旅行をすることができた。近畿日本ツーリストの団体視察旅行なので、添乗員付き、すべて手配済みの楽々旅行ではあったが、やはり駆け足旅行ということで、自由時間も少なくゆっくりと見物する時間がなくて残念であった。

旅行先での自由時間の様子が分からなかったこと、また色々と忙しく連絡することもできないまま、何の準備もできず出発することになってしまった。ただホテルでの宿泊地になっている、都市のエスペランチストの名簿を、バスピルタ・セルボ、S A T（世界無民族協会）、U E A（世界エスペラント協会）のリストよりコピーして持っていった。結果として、3カ所でエスペラントに合うことができ、良かったと思っている。以下その様子を簡単に報告したい。



（橋から小山の上の城塞、旧市街を見る）

（1）ザルツブルク（オーストリア）

川沿いの高台に城塞もあり、古い教会、大聖堂なども多く、大都市でないがなかなかの観光地である。ウィーンより西の、ドイツへ向かう国際特急列車で約3時間のところにある、ドイツとの国境に近い町である。2泊できたので、着いた夕方ホテルの電話帳でS A Tの名簿にただ一

人載っていたエスペラントの電話番号をさがした。フロントでその住所の位置を尋ねるとホテルから約4～5キロ程度であるという。これならあまり負担もかけないだろうし、もし家を訪問することにしても、タクシーで行ける距離である。

電話をしてみると、幸いにして本人と話すことができて、翌日会えることになった。彼は30何歳かで今定職が無いとのことであった。次の日は、山間の町サンクト・ゲオルゲンを訪問することになっていたので、そこから帰ってくる予定の時間に、ホテルで待ち合わせることにした。その後は夕食まで自由時間となっていて、自分たちで街を見学することにしていたので、時間がとれたのである。

少し遅れたが2時過ぎにホテルに帰ることができる、彼と外へ出た。写真のとおり身長185cmはありそうな大男であった。
駅前のカフェ（喫茶店）でコーヒーのみ少し話をした。彼の名前はJAXで、私と同じく余りおしゃべりでない。エスペラントも話す機会が少ないので、どもるようにボツリ・ボツリと話す。エスペラントの行事、大会にも余り参加していないとのこと。お互いに話が弾まない。

山の上の城塞を見たいこともあって、誘ってケーブルカーの駅までタクシーを走らせた。彼は4時頃までしか時間が無いとのことで、上の城塞に登り、場内を一回り、また建物の中でスライドをやってだったので見ていたが、街の様子や城の内部、四季折々の場面を映し出してきれいでいた。時間も少ないので、みな見終わらずに外に出た。この写真は城塞の上で、町並みを背景にしてとったが、写真ではほとんど分からぬ。昼間は天気が良くて暖かかったが、朝晩は冷えて現地の人はコートを着ている人が多かった。時間が無くなってしまったのでケーブルカーの上の駅で彼と別れた。別れる前に彼はポラロイドカメラを出してきて、記念に私の写真を1枚撮った。写真を撮るのが下手で、良いものができないうえに、彼を写しているのはこの写真のみである。



(城塞の上から街を見て)

(次号へ続く)

[マジョリー・ブルトンさんの記事の訳]
イギリス



問題をかかえる警官

人間には完全ということはないが、イギリスの警察はそのうちでも、まだましなうちにいるようで。規則はよく守り、一般市民の呼びかけに答え、犯罪者を逮捕するだけでなく、その他のことでもいろいろと助けてくれます。大事なのは、犯罪と事故を prevent 未然に防いでくれること。

私事ですが、私が家を買った時、その地方の防犯担当の警官が、家の安全性について貴重な助言を無料で、しかも書類までつけて伝えてくれました。私が路上で、警官にものを尋ねたら、親切に教えてくれたのですが、それを見ていた外国の友達は、はじめとてもこわがり、あと、ふしぎそうな顔をしていました。

しかし時には...

犯人逮捕の話ですが：ある南イギリスの警官たち、銃をもった危険な人物が車の中からあたりをうかがっているという警報を受けました。直ちに応答、高速車にとびのり、サイレンをならし、無線連絡をし、勇敢な対応。現場についてみると、それは人物大のただの紙人形、ある映画の宣伝でした。

市民を危機から救う話：

美女がまさに溺れようとしているのを警官が発見。（ふさ飾りのいっぱいいた金色の長い服に、あざやかな緑色の靴下！という）華美な服装で、ブライ頓の公園の池に浮い

ていました。——そう、第74回世界大会のあのブライ頓です。勇敢な警官たちは直ちに救助にむかいました。多分、夜通しの祝賀会のあと若干の覚醒剤をのんで、今落ち込んだらしいのです。彼女がむきになって言うには、毎週水曜日の朝、大きなプラスチックの水れんの葉っぱの上で、半時間ゆっくり横になるのだという。何故？それは、ある芸術祭で、彼女は訪れる人魚の役を演じるのだという。

防犯の話：

善良な市民は、あやしいと思ったらすぐ警察に知らせるべきです。夜中じゅう勤務に就いている警官も何人かいます。だから、中世英國のまちマーケット・ドライ頓では、用心深い（何人かの）市民が警察に電話をしました。物言わぬひそやかな人影が、家々の庭から庭へと忍びあるき、表の戸口に近づいてくるというのです。何かいやらしいねらい？

事実は、夜勤の警官数人が定時巡回のついでに集中する防犯問題をそっと調べようと、戸の穴からぞいたのでした。



エスペラント点字

点字（B r a j 1 o）でエスペラント文を書きましょう。
まずその28文字を覚えましょう。



A	B	C	Ĉ	D	E	F	G
Ĝ	H	Ĥ	I	J	Ĵ	K	L
M	N	O	P	R	S	Ŝ	T
U	Ŭ	V	Z				

問題 次の文を読んで、答えを点字で書きなさい。



'95 ZAMENHOF-FESTO

12/16±

1年のごぶさた

ザメンホフ祭

1年ごぶさた

◎日時：1995年 12月16日（土）

~~12.00~~ 13:00~15:00

◎会費：当日会費1000円（軽食）

◎会場：昨年と同じ サロン「金」

市内 元寺町南の工

即 $0.734 = 3.1 = 3004$

長崎屋の西南約100キロ

その他の会費の受付：生島さん

1996年度 緑丘会 3000円

JEI 6400円

KLEG 3800円

来年、大会あちこちで

☆ 世界大会 (UEA)

1996年 7月20日～27日 チェコ・布拉ハ

☆ 第1回アジア大会

1996年 8月22日～25日 中国・上海

☆ 世界大会 (SAT)

1996年 7月13日～20日 SANKT-PETERBURGO

☆ 第4回アフリカ大会

1995年 12月28日～1996年1月2日 タンザニア・
キリマンジャロ (エスペラントの世界より)

☆ 第1回モンゴル大会

1996年 8月18日～25日 (予定) モンゴル・ウランバートル
(エスペラントの世界より)

(国内)

□ ひろしまへきんさい (日本大会)

1996年 8月9日～11日 広島市 国際会議場

□ 第44回関西大会

1996年 6月8・9日 (予定) 豊中市

和歌山緑丘会

Wakayama Klubo VERDA MONTE TO

会費：年 3000円、家族・学生 1人 1000円

払込は 郵便振替をご利用ください。

振替番号 00960-8-3630

名 義 和歌山緑丘会

会計係 牛島美恵子

〒640 和歌山市 狐島 65の12

TEL 0734-55-1088

1996年 1月 [編集] 前田米美 〒640 和歌山市小松原 6-1-6 (Tel. 0734-22-8660)

WAKAYAMA Januar o, Februar o 1996

VERDA MONTE TO

Redaktita ĉe MAEDA Yonemi (dumonata) N-ro 90

エスペラントでの出会い (1995年) その2

FUKUMOTO Hirotugu

ウィーンではエスペラント博物館のそばをバスで通ったのに立ち寄ることができなかった。またミュンヘンでも自由時間が少なく誰にも会えなかつた。ただミュンヘンのホテルを出発するときに、たまたま入ってきたタクシーの横を見ると、なんとエスペラントの宣伝が書かれているではないか。バスが出るところだったので、あわててタクシーの窓ガラスをたたいてエスペラント



(ホテルのロビーで、カバンにはエスペラントの緑の星のシールを貼っている)

(ホテルの前の大通りに沿って作られている公園、噴水もきれいだ)

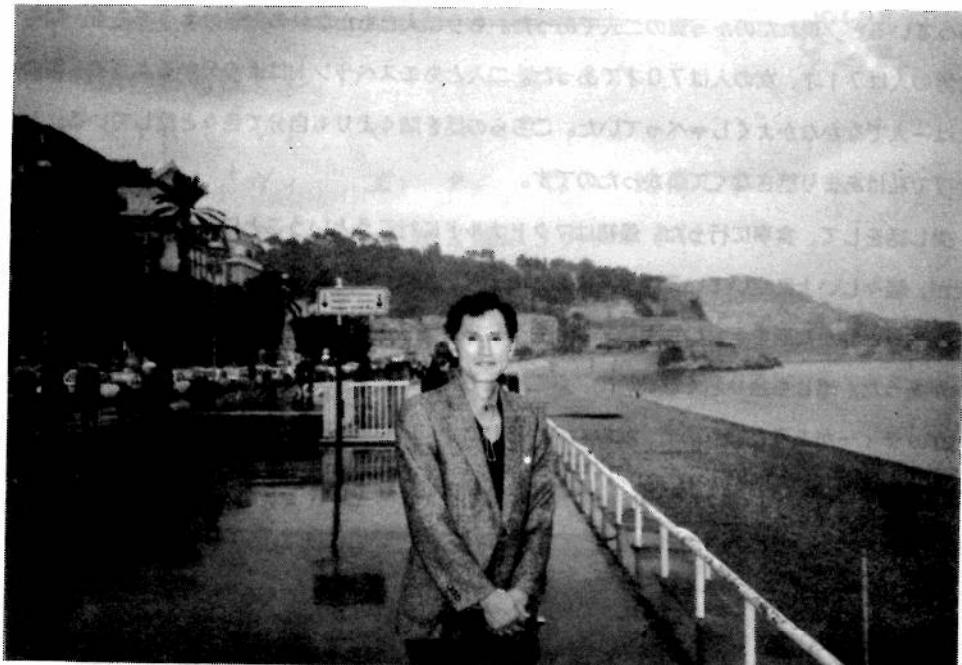


で話しかけてみた。しかし運転手はエスペランチストではなく、とても残念であった。

機会がなく日程が過ぎていくので、フランスに入ってから連絡を取ろうと思った。ニースでは一泊であったが、ホテルに着いてからサートの会員に連絡してみることにした。ザルツブルグのホテルから市内電話したときに、割高の金額を取られたので、今度は公衆電話を使ってみようと考えた。ところがコインが使えない、カードのみの電話機である。ホテルのフロントに戻って、テレホン・カードを買おうとしたが売っていない。聞くと近くの店で売っているというので、そこに行った。50度数のを買って、試してみた。うまくつながって、本人とエスペラントで話すことができた。

他の人とも連絡を取ってみるということなので、また1時間ほど後で再度連絡することにして電話を切った。その後ホテルの前の通りを散歩し、海岸へ出た。通りには公園もあり、噴水な

(この時雨は止んでいたが、まもなく降り出した。堤防と言うよりは広い歩道になっている)



どがあって、並木の豊かな気持ちの良い場所である。あいにくとフランスに入ってからは、空模様が悪くなり、ホテルに着く頃には少し雨もばらつきだしていた。この大通りは海岸から 200 m 程離れて、海岸に並行して走っている。浜辺に出ると期待に反して、砂浜ではなく 3~5 cm 程の玉砂利ばかりであった。これでは白浜の海岸の方がよっぽど素晴らしいと思った。すでに 10 月の終わりでシーズンは過ぎており、観光客は少ないということであったが、人出はまばらとは言えずまあまあ賑わっていた。この時期にこれでは、夏ごろは本当に一杯に成るであろうと推測できた。雨も降ってきたので、ホテルに戻った。

時間が来てもう一度連絡しようと、外の公衆電話に行った。ところが今度は電話がいっこうにかかるない。あせって何度も試みるが同じことである。時間は過ぎて行くし、何ともならないので、しかたなくホテルに戻って、部屋からかけ直した。彼によると急なことなので、二人しか行

くことができないとのこと。ホテルに来てもらうことにした。みんなとの夕食をやめてロビーで待っていると、現れたのが写真の二人であった。もう二人ともかなりのお年である。聞くと男の人は71才、女の人は70才であった。二人ともエスペラントはよく分かるようで、男の人は一人でなかなかよくしゃべっていた。こちらの話を聞くよりも自分で色々と話している。おかげで私はあまり話さなくてよかったです。

少し話をして、食事に行った。最初はマクドナルドに行こうということになって、店には入つたが、騒々しい上に空いている席が無い。その上若い人ばかりで、我々は少々場違いな感じである。もっと静かな所をと言いながら、通りを少し歩いて横道に入ると、誰も客のいないレストランがあった。感じも余り悪くないので、ここに落ち着いた。メニューが分からぬ。パスタかスパゲッティーがあるというので、私はパスタにした。二人は魚料理に、ごはんが付けられている一皿である。



(レストランで、緑の星を写すことを忘れない。さすがベテランである。)

今から思い出してみると何を話したのか覚えていない。S A Tの会員に若い人が少ないという話などや、治安の悪いことなどであった。ニースでも余り治安が良くなく、彼も3回ほど被害にあったとのことである。また和歌山に来たことのあるロベールさんことを訊ねたが知らないとの返事であった。7時過ぎの待ち合わせだったので、食事が終わってみると、もう9時を越していた。彼の家は少し離れていてバスで30分程だが、10時を過ぎると夜の4コースしかバスが通らないので、山を越えて回るバスに乗らなければならない。というわけで、バス乗り場に送つていったが、残念なことに9時半のバスが出てしまっていた。しかたなく寒い中30分ほど待つてノクトブーソ（夜のバス）で帰つていった。遠い中電話一つで会いに来てもらい、ありがたい出会いであった。

（次号へ続く）



（食事をしたレストランの前で。季節外れで、通りには人が少ない。通りには、それぞれのお店がテーブルとイスを並べている。夏には人でいっぱいになるのだろう。）

あやまり探し F-ino Vasare Mockeliunaite (Litovio)



奥村林蔵

お正月に、外国から届いた第一便。リトヴィア (LITOVIÖ) から。13歳の少女からで、文通の申し込み。

エスペラントを習って1ヶ月になるとのこと。一家4人みなエスペラントを習っているとゆう環境もさることながら、13歳の少女が、習ってわずか1ヶ月で文通申し込みする、その才能、その度胸、その勇気、恐れ入る。そしてエスペラントの習得しやすさに一安心する。

日本の子供なら1ヶ月どころか3年間も中学で英語を習っていても1通の英文手紙も書けまい。エスペラントと文字も単語も文法も同じ系統のものを日常使う彼ら。言語生活の大差（優劣では無い）に唖然呆然とする。去年の暮れに、ポーランドの、これも13歳の少女（私は『エスペラント・オジサン』で外国の子供との文通専門、これが老後の生きがい？）から、私が紹介した宮古短期大学のエス・ゼミの女子学生から何日たっても返事が来ない云々と書き添えたクリスマスの手紙が来ていた。紹介者の面目丸潰れである。それほどエスペラントは我々に取って難しい、彼らに取って易しい、言語である。

さて、そのリトヴィア少女の手紙は右上の通りです。全くそのままに書き写しましたので、中のまちがいを見付けて下さい。

あやまり（十数か所）を見付けたら、ナーンダ、やっぱり子供。私ならもうちょっと書けるわ、と自信を持ち直すでしょう。

(注意：一部で印刷のために段落、行替えをしています。福本)

Samideano

Vion adreson mi trovis en la gazeton. Kaj mi skribas al vi por demandi ĉu vi deziras korespondi kun mi.

Mi estas Vasare kaj mia familinomo estas Mockeliūnaite. Mi havas dek tri jarojn. Mi lernas en la lernejo. Mi havas fratinon. Ŝia nomo estas Ringaile. Mi havas gepatroj. Patrino nomo estas Nijole kaj patro nomo estas Kestulis.

Mi lernis Esperanto antaŭ unu monato. Mia tuta familio lernis Esperanto. Mi loĝas en Kaunas. Kaunas staras apud riveroj Nemunas kaj Neris. Mi ŝatas bestoj. Al mi tre plaĉas korbopliko kaj dancado. Mi tre ofte vojagi en Litovio. Mi estis en Prago kun fratinon. Ĉu vi havas gepatroj? Ĉu vi havas fratojn? Pro kio vi interesigas?

Atendati vian respondon, mi kore salutas vin.

SAMIDEANE VASARE

国際語エスペラント一分間講習



国際語のお勉強です ローマ字式に読みます

K i u v i e s t a s ?

キ ウ ヴィ エ s タ s はい 結構です

一つの単語に母音 (aiueo) が2個以上あるときは

終から2つめ母音にアクセントをつけます

キイーウ ヴィ エースタ s ? 結構です

誰 貴方 である か

その答は Mi e s t a s MAEDA.

意味も読みも解りますね では貴方へ質問します

K i u v i e s t a s ?

さて貴方の答は _____

うえの講義で一分間 完了 よく出来ました

もしまだ時間があるなら 希望の声が出たら 次の一分間講座です

英語ではg Gがグだったりヂだったりで困りますが エスペラントでは
g Gはいつでもグで デのときは山形帽子をつけて&合とします

K i e v i l o g a s ?

キーエ ヴィ ローデ s

何所に 貴方 すんでいる か

答は Mi log a s e n K A I N A N .

読みますね 意味も解りますね では貴方への質問

K i e v i l o g a s ?

貴方の答は _____

よく出来ました 合格です
エスペラントには英語から来た単語もたくさんあります
みんなローマ字読みですよ

①tablo ターロ ②birdo ピード
③boato ボアート 意味は テーブル 小鳥 ボート ですね
さて Kio ɔ i e s t a s ?
キーオ チ エー・タス ?
何(物) その物 である か
答は ɔ i e s t a s tablo.
チ エー・タス ターロ
ɔ i e s t a s birdo.
チ エー・タス ピード

では③についての

問い合わせは _____

そして答は _____

これで全部卒業です

'95 ZAMENHOF-FESTO 和歌山緑丘会



12/16

サロン、会で、参加者の名

堺エスペラント会の植原さんをお迎えして、手作りのゴ馳走に舌つづみをしながら、フィンランド世界大会や遙か遠い国の話に花を咲かせました。前田先生は冬眠中で、本当に残念でした。

fukumoto

<21世紀とは>

「20世紀とは何だったのか」（なだいなだ・小林司）の中で、3人のユダヤ人に焦点をあてて20世紀を論じている。この3人は資本論を書いたマルクス、精神分析のフロイト、エスペラントを創ったザメンホフである。

エスペラントが発表されたのは1887年であるから、エスペラントの幼稚期はまさに世紀末であったのだけれども、人々は行き詰まり感を持っていたのだろうか。

繰り返し言われているが、昨年は特に日本にとって様々な事件がおき、戦後の経済体制も大きくぼろを出すことになった。

阪神大震災では、自然の圧倒的な力に対して、近代技術と人間の力の弱さを実感した。

オウム真理教による、サリン事件は未だに信じられない事実である。戦時中の大本教はじめ多くの宗教団体に対する弾圧があったので、現在も宗教弾圧はあり得るのかとも思つたりしたが、これはやはり事実なのだろう。

でも、新聞、テレビで徹底的に報道されると、われわれはその全てのことを信じてしまう。疑いながら、また何の疑いもなく、その報道されたことを事実と思いこんでいく。

オウム信者の信じているハルマゲドンについては、人々は信じていない。しかし、わたしたちもまた、いろんなことを何の根拠も無しに信じている。神戸で大地震が起こると誰が考えただろうか。現在の銀行が倒産するとは、誰も思わなかっただろう。住宅専用貸付金融機関の損失補填に数兆円必要だという。バブルにおどった時期には、不動産の値上がりを信じていた。

数十年前には社会主義にも、またこれに対する資本主義にもまだ未来はあったように思うが、今では社会主義（ソビエト型）は自己崩壊し、資本主義も先が見えていない。20世紀を過ぎて人類が手にしたのは、地球規模での破滅を可能にする何千発という原水爆と、じわじわと進んでいる地球環境の破壊ではないか。

わたし達は豊かなものに溢れて生活しているが、この生活はあと何十年続けられるのだろうか？一方には家無きストリート・チルドレンを絶え間なく生み出していく第3世界の巨大都市は、資本主義の繁栄の象徴でありますから、またそれの持っている毒素をもさまざま見せつけてくれる。

人類の未来がここに凝縮されているのだろうか？

1995年会計報告

(平成6年12月1日～平成7年12月15日)

収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越	98,202	
会費	75,000	当月会員2名、会費2,1名
会員割引	12,160	
案付	2,000	各種料金
預金利息	1,420	
	188,782	

支出の部

項目	金額	摘要
通信費	57,070	切手、印紙等代
郵便費	91,567	VM 郵便代
事務用具	4,871	封筒、紙セミ代
会議費	10,875	サンボ祭業者代
	164,383	

収入の部	188,782
支出の部	164,383
	24,399

和歌山緑丘会

会計係 牛島美恵子

